

# 第24回 江東区政世論調査



スポーツと人情が熱いまち

## 江東区

江東区

令和元年（2019年）12月

1. 定住性
2. 防災対策
3. ごみ・リサイクル
4. 交通
5. 選挙
6. 区議会
7. 図書館
8. 江東区ブランディング戦略
9. 教育
10. 児童虐待
11. 緑化推進
12. ペットの同行避難
13. 環境美化
14. 広報
15. コミュニティサイクル
16. 男女共同参画
17. 施策への要望



## 52万人都市として更なる発展を目指して

江東区政世論調査は、昭和48年から隔年で実施しており、今回で24回目となります。

本区の人口は、平成27年6月に50万人に達し、その後も南部地域の開発などに伴う人口増加が続く中、新しい令和の時代を迎えた本年5月には52万人を超えました。ライフスタイルや価値観が多様化する中、区民ニーズに的確に対応し、子どもから高齢者まですべての世代がいきいきと暮らせる地域社会を作っていくことが求められております。本区では、現行の長期計画が今年度で終了となることから、令和2年度から10年間の新たな長期計画の策定を行っているところです。

本区ではこれまで「築地市場の豊洲移転整備」や「中央防波堤埋立地の帰属」等、様々な重要課題に対して、区民・区議会のご理解・ご協力のもと解決に取り組んできましたが、南部地域のまちづくりや環境対策、保育待機児童の解消、高齢者・障害者福祉の推進など、本区を取り巻く諸課題は多岐にわたっています。

そのような中、これまでの世論調査で継続調査している定住意向は、90.0%と前回同様、非常に高い水準となりました。この結果はこれまでの取り組みが評価された結果であり、大変喜ばしく思っております。

今回の調査では、社会情勢の変化などを踏まえ、新規調査項目として「教育」「ペットの同行避難」「環境美化」「コミュニティサイクル」を設けました。継続して行っている調査項目の結果と合わせ、今後の区政運営や施策立案の際、貴重な基礎資料として活用し、今後も、住みよさを実感できるまちを区民の皆様と力を合わせて作っていきたいと思っております。

最後に、本調査の実施にあたり、ご協力いただきました区民の皆様にご心から御礼を申し上げます。

令和元年12月

江東区長 山崎 孝明



---

<b>第1章 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査目的 .....	3
2 調査内容 .....	3
3 調査設計 .....	4
4 回収結果 .....	6
5 標本誤差 .....	7
6 報告書の見方 .....	8
7 調査設計及び回収結果の履歴一覧 .....	10
<b>第2章 調査回答者の属性</b> .....	<b>11</b>
1 地区 .....	13
2 性別 .....	13
3 年齢 .....	13
4 性別×年齢 .....	14
5 国籍 .....	14
6 職業 .....	15
7 同居人の有無 .....	15
8 住居形態 .....	16
<b>第3章 調査結果の概要</b> .....	<b>17</b>
1 定住性 .....	19
2 防災対策 .....	21
3 ごみ・リサイクル .....	25
4 交通 .....	26
5 選挙 .....	28
6 区議会 .....	32
7 図書館 .....	34
8 江東区ブランディング戦略 .....	35
9 教育 .....	37
10 児童虐待 .....	38
11 緑化推進 .....	40
12 ペットの同行避難 .....	43
13 環境美化 .....	44
14 広報 .....	45
15 コミュニティサイクル .....	50
16 男女共同参画 .....	53
17 施策への要望 .....	54

# 目次

---

<b>第4章 調査結果の分析</b> .....	<b>55</b>
<b>1 定住性</b> .....	<b>57</b>
(1) 居住年数 .....	59
(2) 定住・転出意向 .....	62
(3) 定住意向理由 .....	65
(4) 転出意向理由 .....	68
<b>2 防災対策</b> .....	<b>69</b>
(1) 震災時の不安 .....	71
(2) 震災時の備え .....	76
(3) 家庭内で準備している防災用品・用具 .....	80
(4) 防災対策への要望 .....	83
<b>3 ごみ・リサイクル</b> .....	<b>89</b>
(1) ごみを減らす活動の取り組み状況 .....	91
(2) ごみを減らすために行っている取り組み .....	94
<b>4 交通</b> .....	<b>97</b>
(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じることに .....	99
(2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの .....	102
(3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え .....	105
<b>5 選挙</b> .....	<b>109</b>
(1) 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無 .....	111
(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの .....	115
(3) 投票しなかった理由 .....	117
(4) 「選挙公報」の閲読状況 .....	119
<b>6 区議会</b> .....	<b>121</b>
(1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況 .....	123
(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体 .....	126
<b>7 図書館</b> .....	<b>129</b>
(1) 区内図書館の利用頻度 .....	131
(2) 図書館サービスへの要望 .....	134
<b>8 江東区ブランディング戦略</b> .....	<b>137</b>
(1) 区のロゴマークやブランドコンセプトの認知状況 .....	139
(2) 区に持っている印象 .....	141
<b>9 教育</b> .....	<b>145</b>
(1) 区の教育において重視すべきもの .....	147

---

10	児童虐待	151
	(1) 身近で児童虐待があった場合の通告（相談）の有無	153
	(2) 通告（相談）をしない、または、するかわからない理由	156
	(3) 思いつく通告（相談）先	158
11	緑化推進	161
	(1) 区内のみどりの満足度	163
	(2) どんな時に、みどりがあって良かったと感じるか	166
	(3) 取り組んでいる、または今後取り組みたいと思うみどりに関する事業	170
12	ペットの同行避難	175
	(1) ペットの同行避難の認知状況	177
	(2) ペットの同行避難の認知媒体	179
13	環境美化	181
	(1) 区民の環境美化意識の向上を図るために必要だと思うもの	183
14	広報	187
	(1) 「こうとう区報」の閲読状況	189
	(2) 「こうとう区報」について、不満に感じている点	192
	(3) 区が行っている事業やイベント、仕事内容などの認知媒体	194
	(4) 「江東ワイドスクエア」の視聴状況	198
	(5) 「江東ワイドスクエア」の視聴時間帯	200
	(6) 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容	202
	(7) 「ラジオこうとう」の聴取状況	205
15	コミュニティサイクル	207
	(1) 「コミュニティサイクル」の認知状況	209
	(2) 「コミュニティサイクル」を利用しない理由	212
	(3) 「コミュニティサイクル」の他区との相互乗り入れについての考え	215
16	男女共同参画	219
	(1) 配偶者との家事の役割分担	221
17	施策への要望	223
	(1) 力を入れてほしい施策	225

# 目次

---

<b>《巻末資料 1》</b>	<b>クロス集計表</b>	<b>231</b>
1	定住性	233
2	防災対策	236
3	ごみ・リサイクル	240
4	交通	242
5	選挙	244
6	区議会	248
7	図書館	250
8	江東区ブランディング戦略	252
9	教育	254
10	児童虐待	255
11	緑化推進	257
12	ペットの同行避難	261
13	環境美化	262
14	広報	263
15	コミュニティサイクル	268
16	男女共同参画	271
17	施策への要望	272
18	フェイスシート	280
<b>《巻末資料 2》</b>	<b>調査票のサンプル</b>	<b>287</b>
1	定住性	290
2	防災対策	291
3	ごみ・リサイクル	292
4	交通	293
5	選挙	294
6	区議会	295
7	図書館	295
8	江東区ブランディング戦略	296
9	教育	296
10	児童虐待	297
11	緑化推進	298
12	ペットの同行避難	299
13	環境美化	299
14	広報	300
15	コミュニティサイクル	302
16	男女共同参画	303
17	施策への要望	303
18	フェイスシート	304



# 第 1 章 調査の概要



## 1 調査目的

江東区政の各分野について区民の意識や動向、意見や要望などを把握することにより、今後の区政運営の参考に資する。

## 2 調査内容

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) ごみ・リサイクル
- (4) 交通
- (5) 選挙
- (6) 区議会
- (7) 図書館
- (8) 江東区ブランディング戦略
- (9) 教育
- (10) 児童虐待
- (11) 緑化推進
- (12) ペットの同行避難
- (13) 環境美化
- (14) 広報
- (15) コミュニティサイクル
- (16) 男女共同参画
- (17) 施策への要望

### 3 調査設計

- (1) 調査地域：江東区全域
- (2) 調査対象：江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）
- (3) 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数
- (4) 標本抽出：住民基本台帳からの層化2段無作為抽出  
※詳細な手順はページ下の「■ 標本抽出」の通り
- (5) 調査方法：郵送配布－郵送回収法
- (6) 調査期間：令和元年7月27日（土）～8月16日（金）  
※調査は3週間（2週間＋延長1週間）かけて実施した。
- (7) 調査機関：株式会社 アストジェイ
- (8) 備考：調査の実施にあたっては、回収率向上のため、以下の①～③を行った。  
①区報（R1.7.11号）、および、区ホームページにて調査について周知した。  
②調査期間開始の約1週間前に、予告はがきを調査対象者あてに送付した。  
③調査期間開始から約2週間経過後に、お礼（督促）はがきを調査対象者あてに送付した上で、調査期間の1週間延長を行った。
- (9) 特記事項：調査方法を、前回の「個別面接聴取法」から「郵送配布－郵送回収法」に変更を行った。これに併せて、標本数を前回の「1,500人」から「3,000人」に変更している。

#### ■ 標本抽出

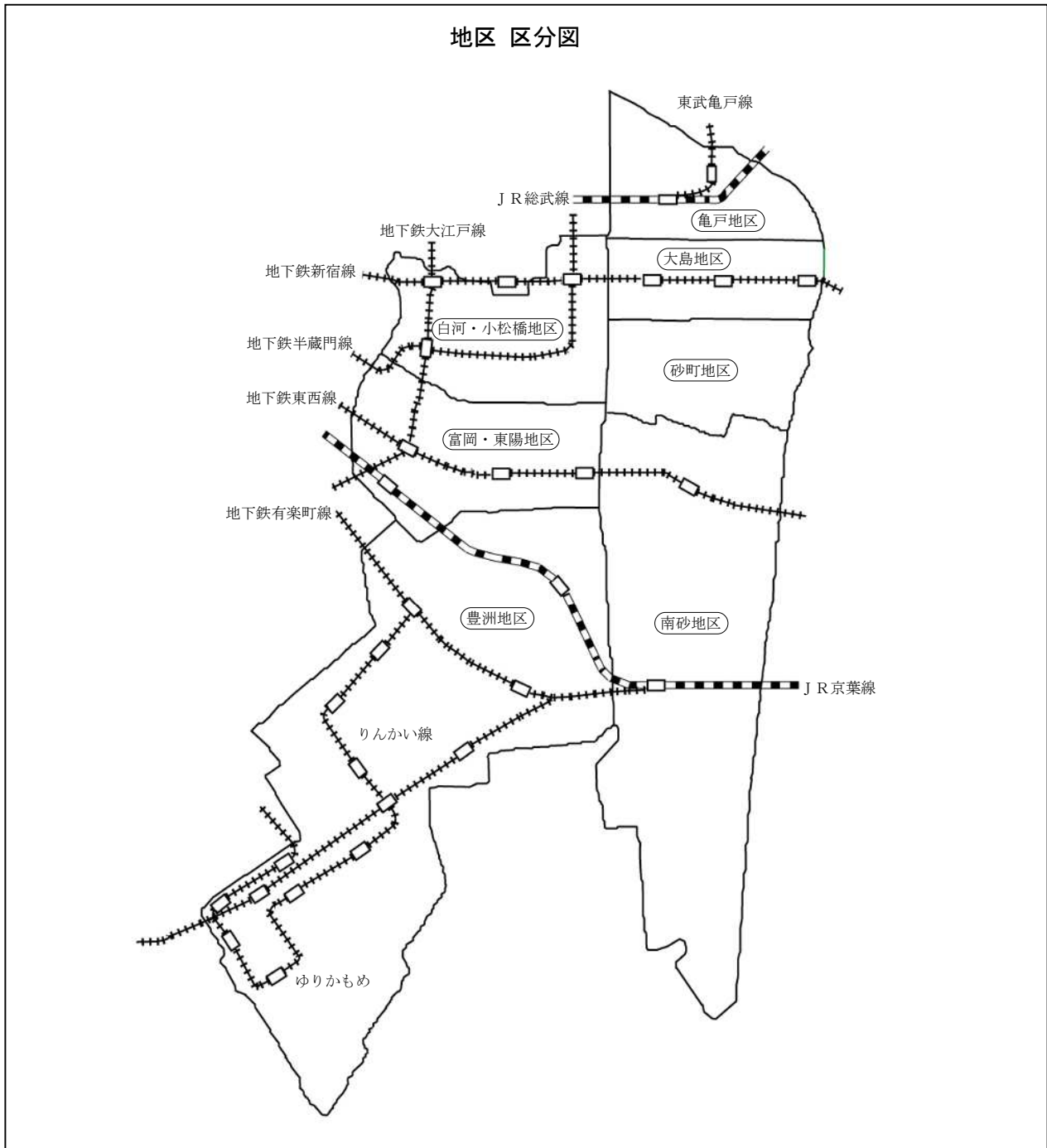
住民基本台帳からの層化2段無作為抽出

##### (i) 標本設計

- ①母集団：令和元年6月1日現在の江東区住民基本台帳上の満18歳以上の男女（外国人を含む）
- ②地点数：150地点（1地点20人）
- ③標本数：3,000人（150地点×20人／1地点）

##### (ii) 標本抽出の手順の詳細

- ①層化：1又は2箇所の出張所（旧出張所を含む）の所管区域を単位として7地区に層化を行う。（次ページ参照）
- ②地点数配分：各地区の住民数に比例する形で、地点数150地点を配分する。  
※住民数が多ければ、配分される地点数がそれに応じて多くなる。
- ③スタート地点：各地区のスタート地点を、3ケタのランダム数により決定する。  
※仮に、大島地区における3ケタのランダム数が435であった場合、住民基本台帳上の435番目の方がスタート地点となる。
- ④地点当り人数：各地区ごとに、住民数と地点数に応じて、地点当り人数を定める。  
※地点当り人数＝住民数÷地点数（小数点以下は切り捨て）
- ⑤地点抽出：各地区において、スタート地点を起点として、地点当り人数を地点数の数だけ足し合わせていくことで、地点を抽出する。  
※1地点目：スタート地点、2地点目：スタート地点＋地点当り人数、3地点目：スタート地点＋地点当り人数×2、...
- ⑥対象者抽出：抽出された各地点より、1地点当り20人の調査対象者を抽出する。  
※15人間隔での抽出を20回繰り返すことで20人を抽出する。



地区・地名等 対応表

	地区	地名等
1	白河・小松橋	清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋、千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
2	富岡・東陽	佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島、木場、東陽、南砂2丁目1番1～5号・5～7番、新砂1丁目1番
3	豊洲	塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海
4	亀戸	亀戸
5	大島	大島
6	砂町	北砂、南砂1・5丁目、南砂2丁目24～34番、東砂1～5丁目
7	南砂	東砂6～8丁目、南砂2丁目（1番1～5号・5～7番・24～34番を除く）・3・4・6・7丁目、新砂1丁目（1番を除く）・2・3丁目、夢の島、新木場、若洲

※令和元年6月1日現在

## 4 回収結果

- (1) 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数  
 (2) 回収数：1,668人  
 (3) 回収率：55.6%

回収結果内訳（地区／性別／年齢／性別×年齢）

		住民数 (18歳以上) ※R1.6.1 現在		標本数 (調査対象者数) A		回収数 B		回収率 C=B/A	
			構成比		構成比		構成比		
合計		417,068	100.0%	3,000	100.0%	1,668	100.0%	55.6%	
地区	白河・小松橋	69,720	16.7%	500	16.7%	279	16.7%	55.8%	
	富岡・東陽	61,826	14.8%	440	14.7%	253	15.2%	57.5%	
	豊洲	87,843	21.1%	640	21.3%	339	20.3%	53.0%	
	亀戸	47,971	11.5%	340	11.3%	180	10.3%	52.9%	
	大島	51,019	12.2%	360	12.0%	200	12.0%	55.6%	
	砂町	62,697	15.0%	460	15.3%	244	14.6%	53.0%	
	南砂	35,992	8.6%	260	8.7%	146	8.8%	56.2%	
	(無回答)	—	—	—	—	27	1.6%	—	
性別	男性	204,807	49.1%	1,496	49.9%	728	43.6%	48.7%	
	女性	212,261	50.9%	1,504	50.1%	920	55.2%	61.2%	
	(無回答)	—	—	—	—	20	1.2%	—	
年齢	18～29歳	57,693	13.8%	435	14.5%	154	9.2%	35.4%	
	30～39歳	71,402	17.1%	521	17.4%	246	14.7%	47.2%	
	40～49歳	88,631	21.3%	696	23.2%	359	21.5%	51.6%	
	50～59歳	64,833	15.5%	464	15.5%	295	17.7%	63.6%	
	60～69歳	51,925	12.5%	355	11.8%	240	14.4%	67.6%	
	70歳以上	82,584	19.8%	529	17.6%	354	21.2%	66.9%	
	(無回答)	—	—	—	—	20	1.2%	—	
性別×年齢	男性	18～29歳	29,313	14.3%	222	14.8%	76	10.4%	34.2%
		30～39歳	35,837	17.5%	271	18.1%	108	14.8%	39.9%
		40～49歳	45,104	22.0%	363	24.3%	158	21.7%	43.5%
		50～59歳	34,068	16.6%	250	16.7%	145	19.9%	58.0%
		60～69歳	25,673	12.5%	168	11.2%	97	13.3%	57.7%
		70歳以上	34,812	17.0%	222	14.8%	144	19.8%	64.9%
		(無回答)	—	—	—	—	0	0.0%	—
	女性	18～29歳	28,380	13.4%	213	14.2%	77	8.4%	36.2%
		30～39歳	35,565	16.8%	250	16.6%	138	15.0%	55.2%
		40～49歳	43,527	20.5%	333	22.1%	201	21.8%	60.4%
		50～59歳	30,765	14.5%	214	14.2%	150	16.3%	70.1%
		60～69歳	26,252	12.4%	187	12.4%	143	15.5%	76.5%
		70歳以上	47,772	22.5%	307	20.4%	210	22.8%	68.4%
		(無回答)	—	—	—	—	1	0.1%	—

## 5 標本誤差

標本誤差とは・・・

今回の調査では、令和元年6月1日における江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）417,068人から、3,000人を抽出して標本調査を行った。

本調査の様に、全体（母集団）から一部を抽出して行う標本調査では、全体（母集団）を対象に行った調査に比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことを標本誤差という。

標本誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、数学的に計算することが可能である。なお、標本誤差は①比率算出の基礎（回答者数）〔n〕および②回答の比率（%）〔P〕によっても異なる。標本誤差の計算式および第24回江東区政世論調査における標本誤差については以下のとおり。

**標本誤差の計算式**

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数（江東区の満18歳以上の人口）  
n = 比率算出の基礎（回答者数）  
P = 回答の比率（%）

第24回江東区政世論調査における標本誤差

回答の比率〔P〕 基礎 (回答者数)〔n〕	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,668	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
1,000	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
800	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
600	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
200	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
100	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

※表の見方：例えば、問2の回答者数が1,688人で、江東区に「ずっと住みたい（住むつもり）」と回答した割合が49.2%であった場合、「その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.5%以内（45.7%～52.7%）である」と見る事が出来る。《基礎（回答者数）〔n〕が1,668、回答の比率〔P〕が50%前後においては、標本誤差は、±3.5%のため。》

※表は、 $\left( \frac{N-n}{N-1} \div 1 \right)$ として算出した。

## 6 報告書の見方

### (1) 集計

#### (i) 集計方法

集計は、「①単純集計」と「②クロス集計」の2種類を行った。

##### ①単純集計

設問ごとの、それぞれの選択肢に何人が回答したのかについての単純な集計

##### ②クロス集計

回答者の属性（地区など）と各設問を縦横に掛け合わせた（クロスした）集計

#### (ii) クロス集計項目

クロス集計を行う項目については、フェイスシート関連8項目および、それに準ずる設問として2項目、計10項目を採用した。

①地区（F1）、②性別（F2）、③年齢（F3）、④性別×年齢（F2×F3）

⑤国籍（F4）、⑥職業（F5）、⑦同居人の有無（F6）、⑧住居形態（F7）

⑨居住年数（問1）、⑩定住・転出意向（問2）

#### (iii) クロス集計表

《巻末資料1》クロス集計表には、上記の10項目（①～⑩）を基本分類軸として掲載した。また、《巻末資料1》クロス集計表および本編中のクロス集計結果のグラフや表の分類軸は、無回答を省いたものを掲載している。

### (2) 回答率（%）

#### (i) 回答率（%）の表記

回答率（%）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位を算出したものを使用した。

#### (ii) 単一回答の設問

上記の（i）により、単一回答（選択肢を1つだけ選ぶ）設問において、すべての選択肢の回答率を合計しても100%に満たない、または上回る場合がある。

#### (iii) 複数の回答の合計値

2つ以上の選択肢を合わせた項目の回答率（%）を表記する場合、その回答率（%）は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、回答率（%）を再計算したものを使用している。このため、複数の回答の合計値と図表の数字が一致しない場合がある。

#### (iv) 回答率（%）の比較

回答率（%）の比較を行うにあたっては、ポイントと表記している。

#### 回答率の合計が100%にならない、または、複数の回答の合計値が一致しない例

	四捨五入前の回答率（小数点第2位）	四捨五入後の回答率（小数点第1位）
選択肢A	50.15%	50.2%
選択肢B	39.85%	39.9%
選択肢C	10.00%	10.0%
合計	100.00%	100.1%

90.00% = 90.0% → 90.1%

100%にならない

四捨五入前の回答率の合計と一致しない



## (3) 割合の表現

数値を考察するにあたり、割合の表現は以下の表の通りとしている。

区分	詳細	表現	
0.0%~9.9%	0.0%の場合	記述せず	
	0.1%以上で、5.0%には満たない場合	わずか	
	5.0%以上で、10.0%には満たない場合	1割未満	
10.0%~100.0%	1の位と小数点第1位が、 右記の場合	0.0~0.4%	○割
		0.5~0.9%	ほぼ○割
		1.0~3.9%	○割を超え
		4.0~6.4%	○割台半ば
		6.5~8.9%	○割近く
		9.0~9.4%	ほぼ○割
		9.5~9.9%	○割
まとめる場合	同じ%台をまとめる場合(※1)	○割台	
	2つの前後の%にまたがる場合(※2)	○割前後	
	2つの後の%台にまたがる場合(※3)	○割以上	

※1~3の具体例および表現例は以下の通り。

(※1) 71.2%と76.8%であれば、7割台

(※2) 69.3%と71.2%であれば、7割前後

(※3) 71.2%と83.4%であれば、7割以上

## (4) 文章の一部省略および語句の簡略化

## (i) 「第3章 調査結果の概要」における、設問の回答ルール案内文の取り扱い

①単一回答（選択肢を1つだけ選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略している。

（省略した案内文の例：次の中から1つだけ選んでください。）

②複数回答（選択肢を複数選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略した上で、複数回答の設問である旨を明示している。

（省略した案内文の例：次の中から2つまで選んでください。）

（複数回答の設問である旨の明示の例：（複数回答）※2つまで）

(ii) 「第4章 調査結果の分析」「《巻末資料1》クロス集計表」における、  
設問文や選択肢の取り扱い

①設問文や選択肢を表において記述する場合、適宜、文章の一部省略や語句の簡略化を行っている。

## 7 調査設計及び回収結果の履歴一覧

第1回（昭和48年度）から第24回（令和元年度）までの調査設計及び回収結果の履歴一覧は、以下のとおり。本報告書の一部の設問において、過年度比較を行っている。比較を行うにあたっては、調査設計の違い等について留意する必要がある。

調査設計及び回収結果の履歴一覧

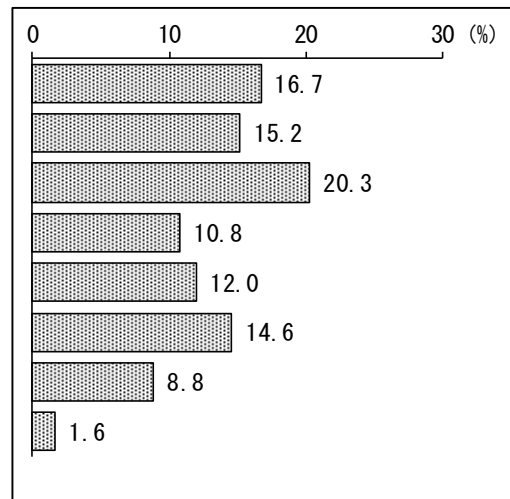
回数	実施年度	調査対象年齢	調査方法	調査対象者数	回答数	回答率
1	昭和48年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	819	81.9%
2	昭和50年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	827	82.7%
3	昭和52年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	815	81.5%
4	昭和54年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	791	79.1%
5	昭和56年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	819	81.9%
6	昭和58年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	990	82.5%
7	昭和60年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	976	81.3%
8	昭和62年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	938	78.2%
9	平成元年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	914	76.2%
10	平成3年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,027	85.6%
11	平成5年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,024	85.3%
12	平成7年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	994	82.8%
13	平成9年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	954	79.5%
14	平成11年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	931	77.6%
15	平成13年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	947	78.9%
16	平成15年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	951	79.3%
17	平成17年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,017	84.8%
18	平成19年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	935	77.9%
19	平成21年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	899	74.9%
20	平成23年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	904	75.3%
21	平成25年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	906	75.5%
22	平成27年	20歳以上	個別面接聴取法	1,500人	1,061	70.7%
23	平成29年	18歳以上	個別面接聴取法	1,500人	980	65.3%
24	令和元年	18歳以上	郵送配布－郵送回収法	3,000人	1,668	55.6%

## 第2章 調査回答者の属性



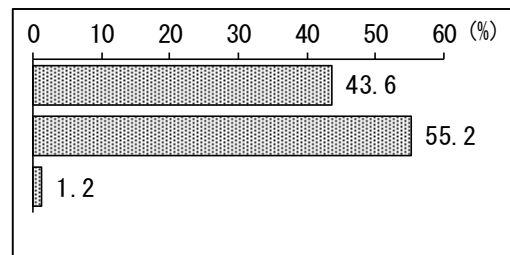
## 1 地区

No.	地区	回答者数	構成比
1	白河・小松橋	279	16.7%
2	富岡・東陽	253	15.2%
3	豊洲	339	20.3%
4	亀戸	180	10.8%
5	大島	200	12.0%
6	砂町	244	14.6%
7	南砂	146	8.8%
—	(無回答)	27	1.6%
合計		1,668	100.0%



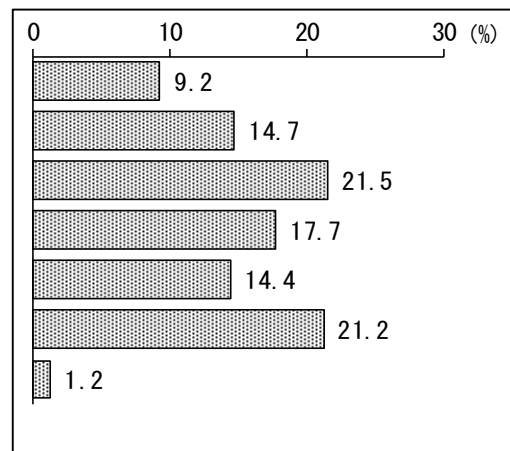
## 2 性別

No.	性別	回答者数	構成比
1	男性	728	43.6%
2	女性	920	55.2%
—	(無回答)	20	1.2%
合計		1,668	100.0%



## 3 年齢

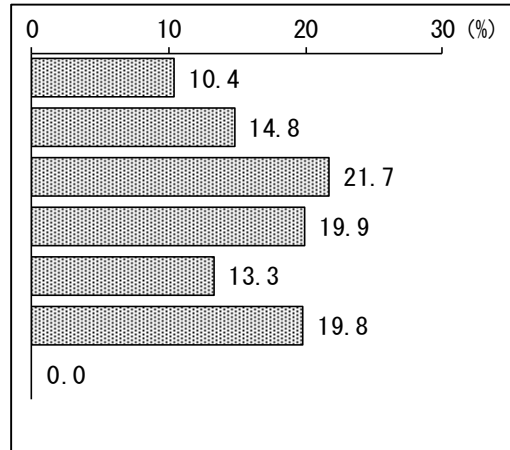
No.	年齢	回答者数	構成比
1	18～29歳	154	9.2%
2	30～39歳	246	14.7%
3	40～49歳	359	21.5%
4	50～59歳	295	17.7%
5	60～69歳	240	14.4%
6	70歳以上	354	21.2%
—	(無回答)	20	1.2%
合計		1,668	100.0%



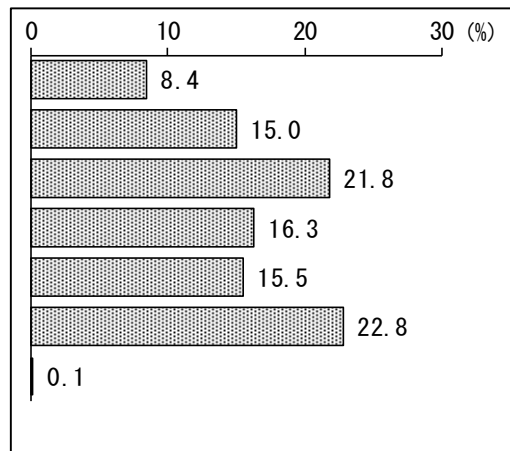
## 4 性別×年齢

第2章  
調査回答者の属性

性別	年齢	回答者数	構成比
男性	18～29 歳	76	10.4%
	30～39 歳	108	14.8%
	40～49 歳	158	21.7%
	50～59 歳	145	19.9%
	60～69 歳	97	13.3%
	70 歳以上	144	19.8%
	(無回答)	0	0.0%
男性 合計		728	100.0%

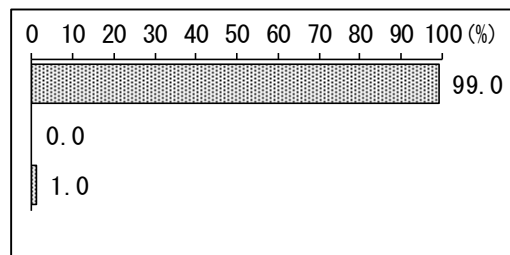


性別	年齢	回答者数	構成比
女性	18～29 歳	77	8.4%
	30～39 歳	138	15.0%
	40～49 歳	201	21.8%
	50～59 歳	150	16.3%
	60～69 歳	143	15.5%
	70 歳以上	210	22.8%
	(無回答)	1	0.1%
女性 合計		920	100.0%



## 5 国籍

No.	国籍	回答者数	構成比
1	日本	1,651	99.0%
2	日本以外 (外国籍)	0	0.0%
—	(無回答)	17	1.0%
合計		1,668	100.0%



## 6 職業

No.	地区	回答者数	構成比
1	会社員、公務員、団体職員	706	42.3%
2	パート・アルバイトなど(※)	265	15.9%
3	自営業・自由業	126	7.6%
4	専業主婦・主夫	225	13.5%
5	学生	41	2.5%
6	無職	257	15.4%
7	その他	27	1.6%
—	(無回答)	21	1.3%
合計		1,668	100.0%

※「パート・アルバイトなど」は非常勤・嘱託・派遣などを含む。

## 7 同居人の有無（複数回答可）

No.	同居人の有無	回答者数	構成比
1	ひとり暮らし	306	18.3%
2	配偶者(※1)	1,026	61.5%
3	子ども(※2)	631	37.8%
4	父母(※3)	217	13.0%
5	兄弟姉妹	86	5.2%
6	祖父母(※4)	16	1.0%
7	孫(※5)	20	1.2%
8	親戚	2	0.1%
9	知人・友人	2	0.1%
10	その他	13	0.8%
—	(無回答)	26	1.6%
合計		1,668	100.0%

※1 「2 配偶者」は、事実婚、同棲しているパートナーを含む。

※2 「3 子ども」は、嫁・婿など子どもの配偶者を含む。

※3 「4 父母」は、義理の父母を含む。

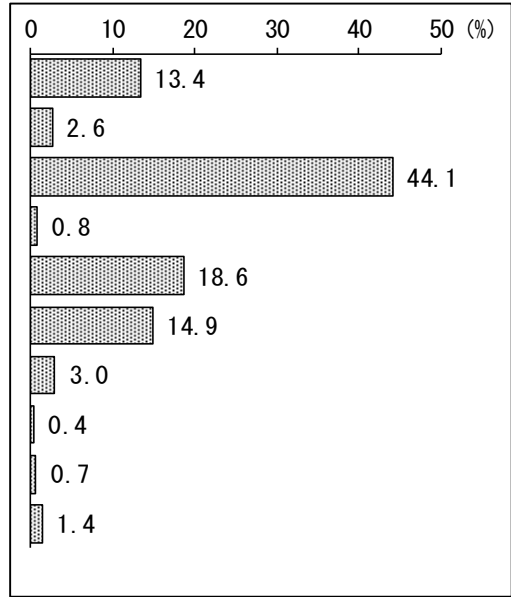
※4 「6 祖父母」は、義理の祖父母を含む。

※5 「7 孫」は、孫の配偶者を含む。

## 8 住居形態

第2章  
調査回答者の属性

No.	住居形態		回答者数	構成比	
1	持ち家	一戸建て	224	13.4%	
2		借地	44	2.6%	
3	集合住宅		735	44.1%	
4	賃貸	一戸建て	14	0.8%	
5		集合住宅	民間	311	18.6%
6			都営等(※)	248	14.9%
7	寮・社宅		50	3.0%	
8	間借り・住み込み		7	0.4%	
9	その他		12	0.7%	
—	(無回答)		23	1.4%	
合計			1,668	100.0%	



※「都営等」は、都営のほか、UR・J K K・区営を含む。



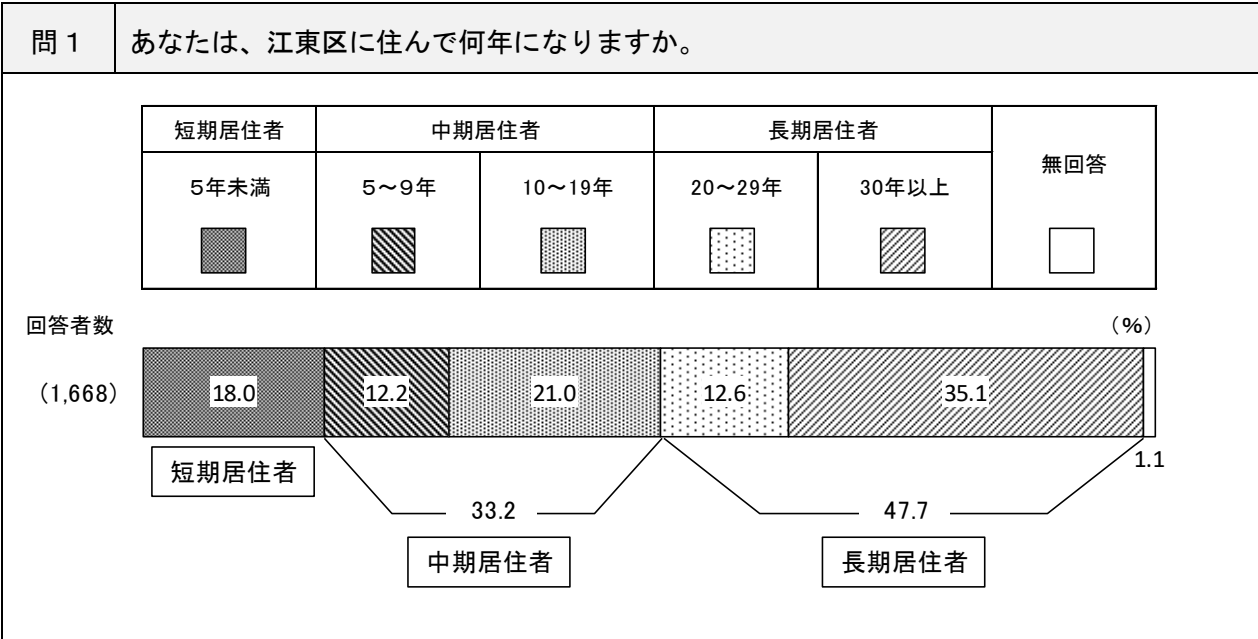
## 第3章 調査結果の概要



# 1 定住性

## (1) 居住年数

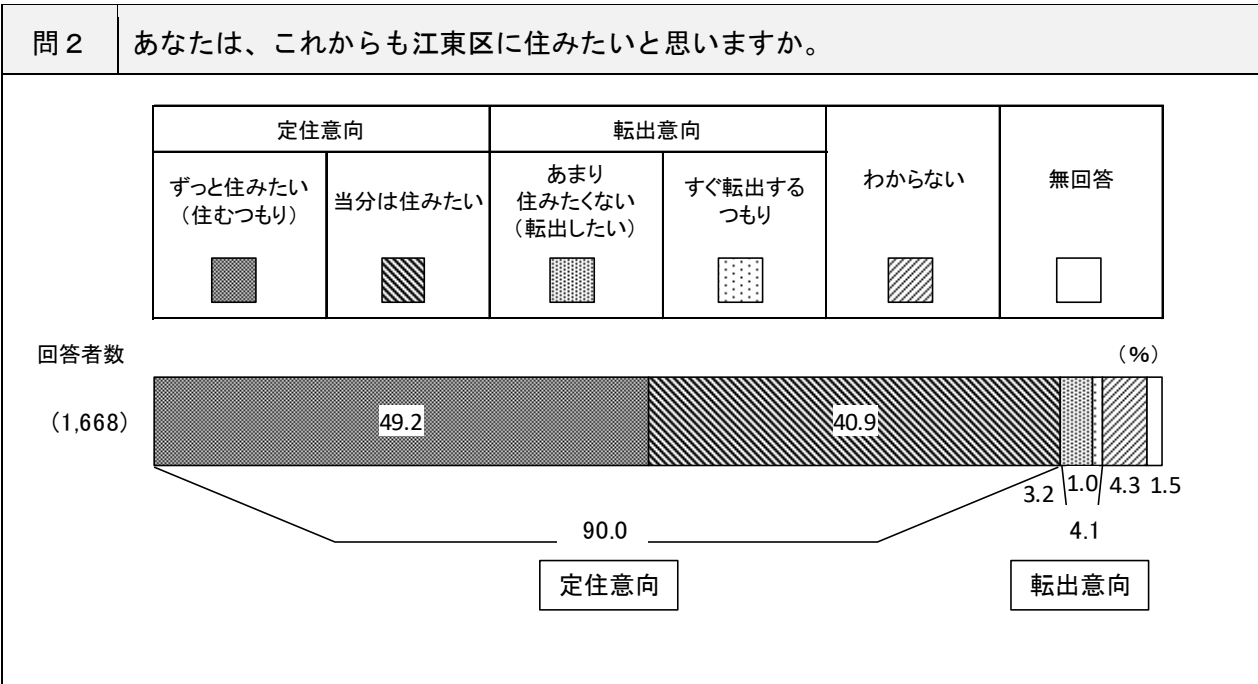
◇「長期居住者」は5割近く



○居住年数については、「20～29年」(12.6%)と「30年以上」(35.1%)の2つを合わせた「長期居住者」(47.7%)が5割近くとなっている。

## (2) 定住・転出意向

◇「定住意向」は9割

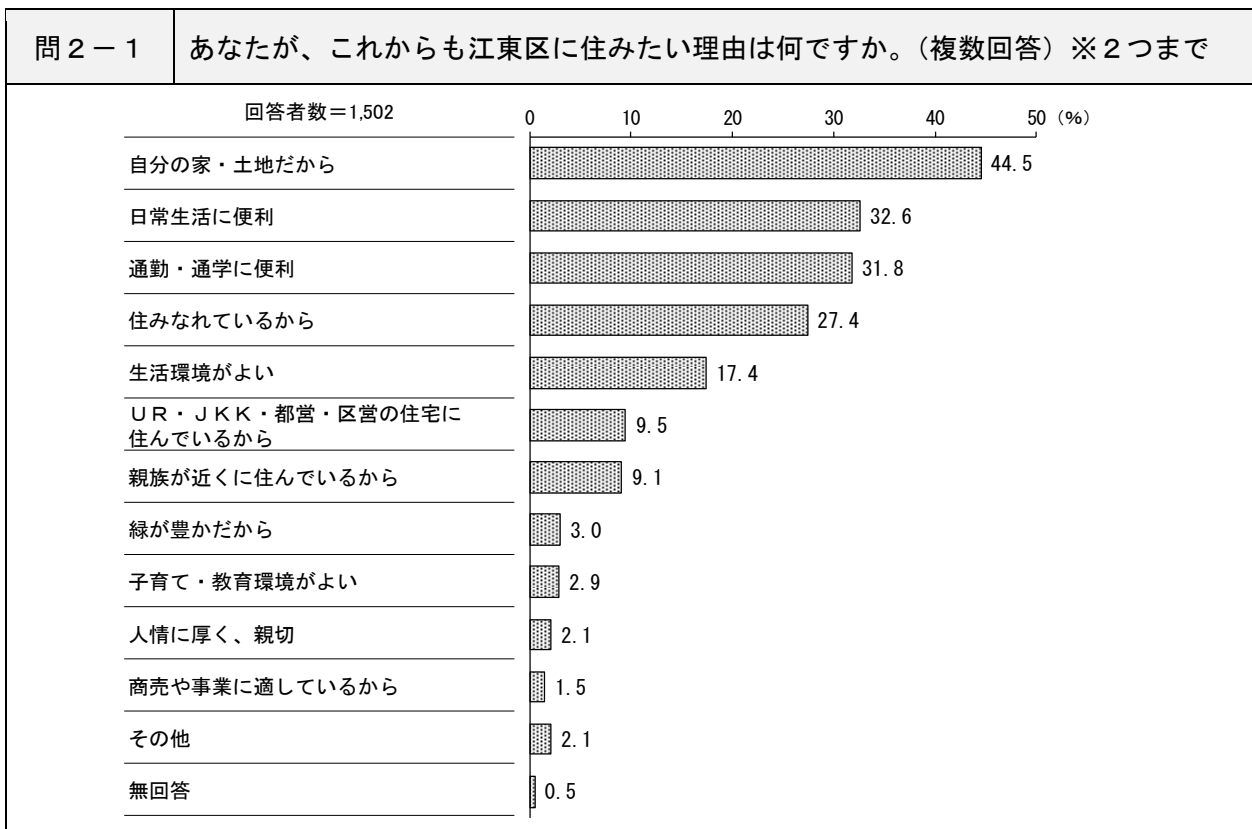


○定住・転出意向については、「ずっと住みたい(住むつもり)」(49.2%)と「当分は住みたい」(40.9%)の2つを合わせた「定住意向」(90.0%)は9割となっている。

1 調査結果の概要  
定住性

(3) 定住意向理由

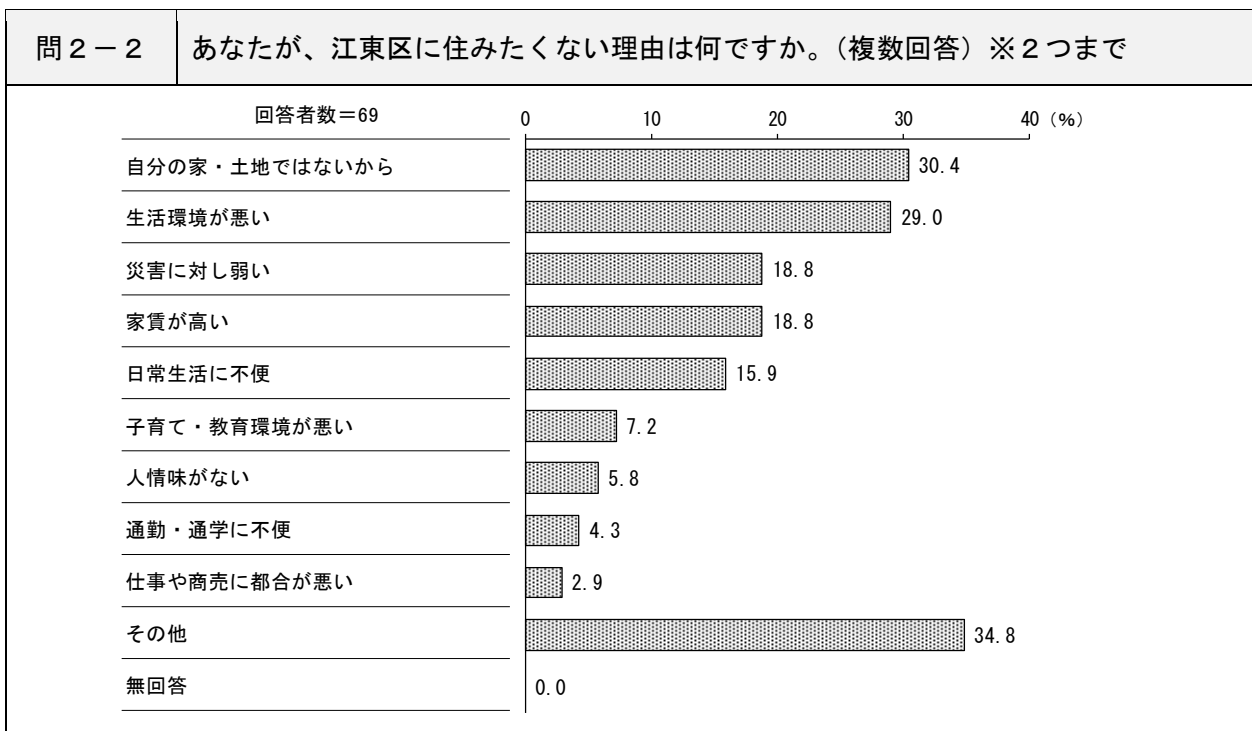
◇「自分の家・土地だから」が4割台半ば



○定住意向理由については、「自分の家・土地だから」(44.5%)が4割台半ばで最も多く、次いで「日常生活に便利」(32.6%)、「通勤・通学に便利」(31.8%)と続いている。

(4) 転出意向理由

◇「自分の家・土地ではないから」と「生活環境が悪い」が3割前後

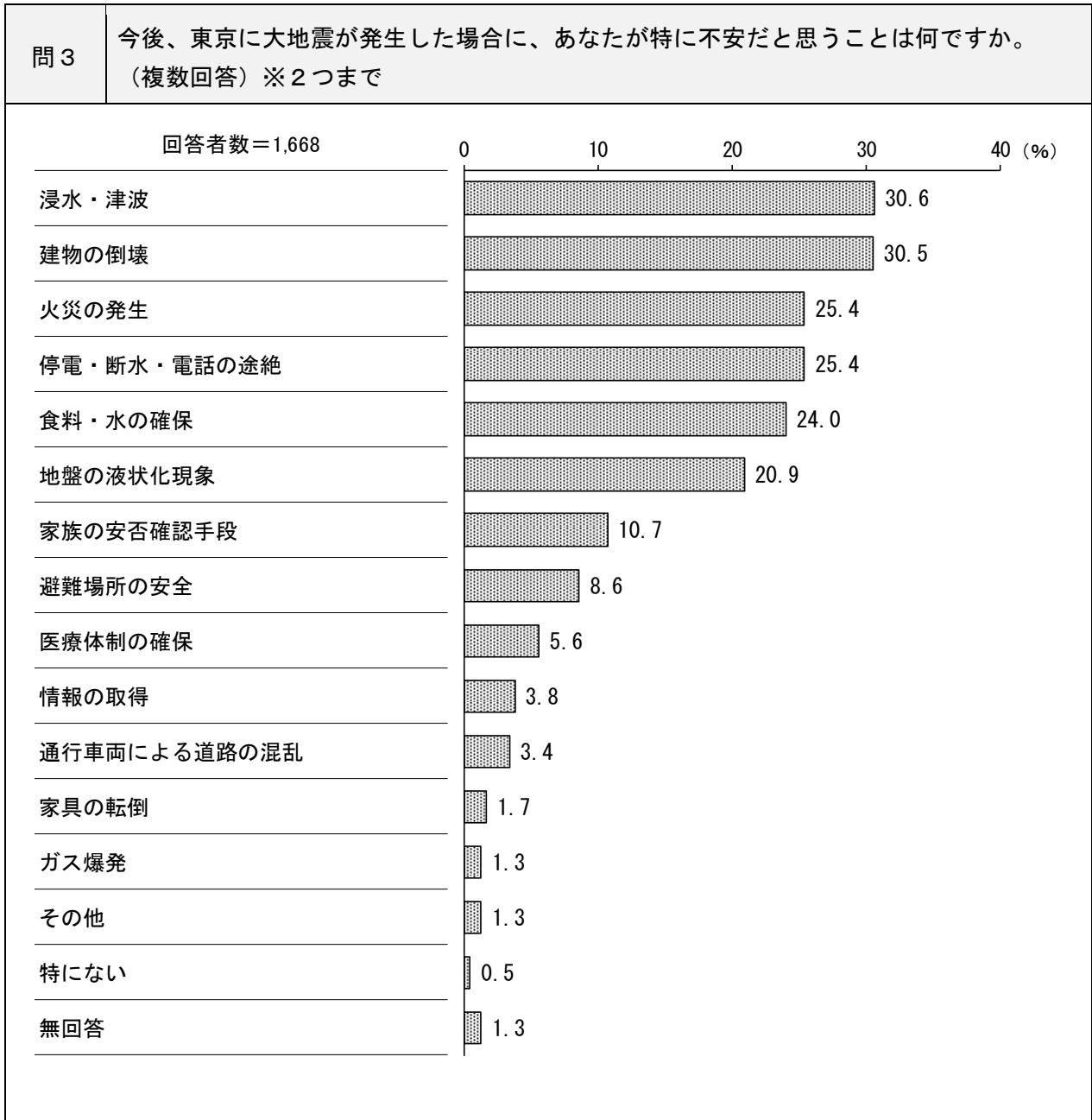


○転出意向理由としては、「自分の家・土地ではないから」(30.4%)が3割で最も多く、次いで「生活環境が悪い」(29.0%)、「災害に対し弱い」「家賃が高い」(18.8%)と続いている。

## 2 防災対策

### (1) 震災時の不安

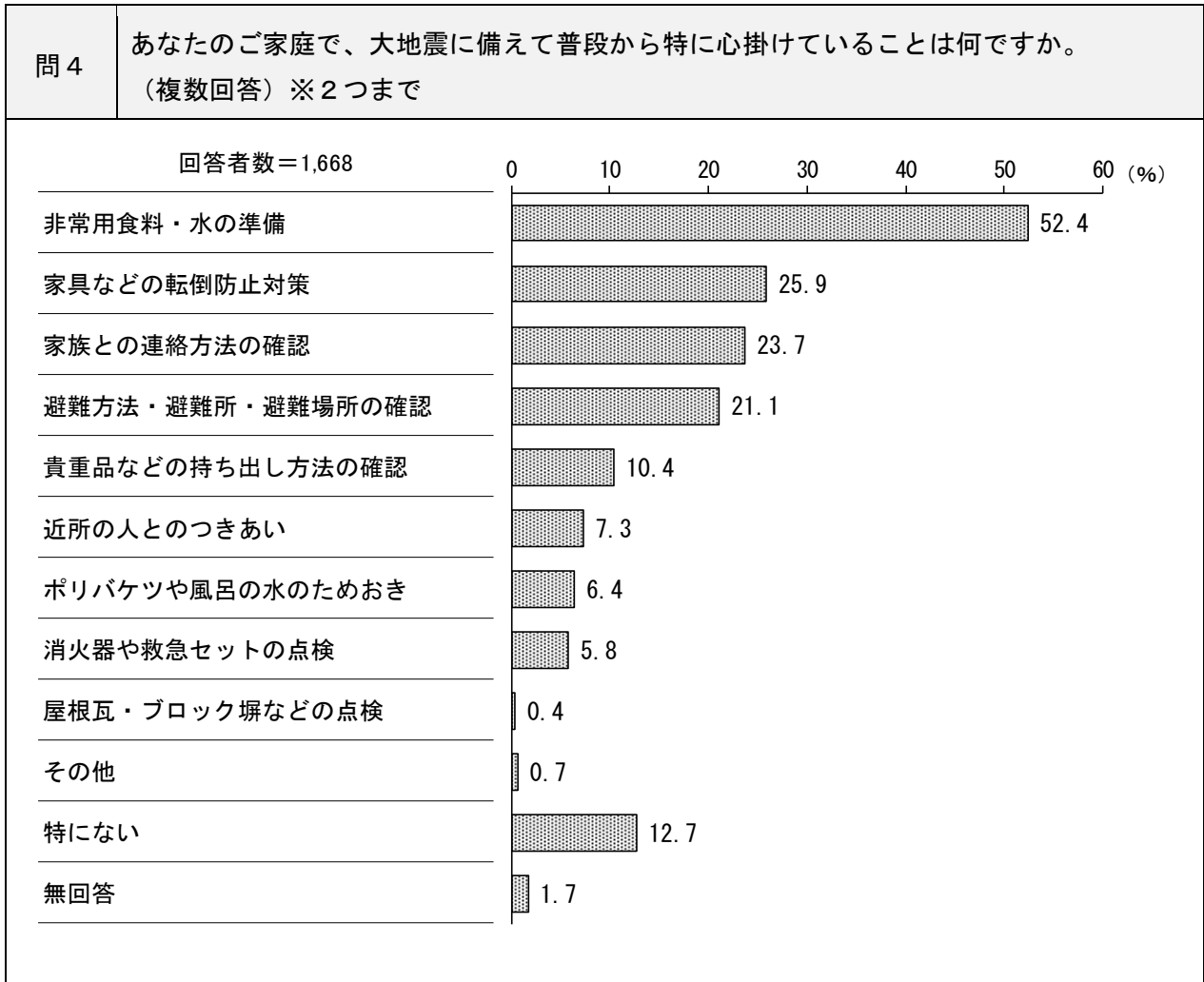
◇「浸水・津波」と「建物の倒壊」がほぼ3割



○大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「浸水・津波」(30.6%)がほぼ3割で最も多く、次いで「建物の倒壊」(30.5%)、「火災の発生」「停電・断水・電話の途絶」(25.4%)と続いている。

(2) 震災時の備え

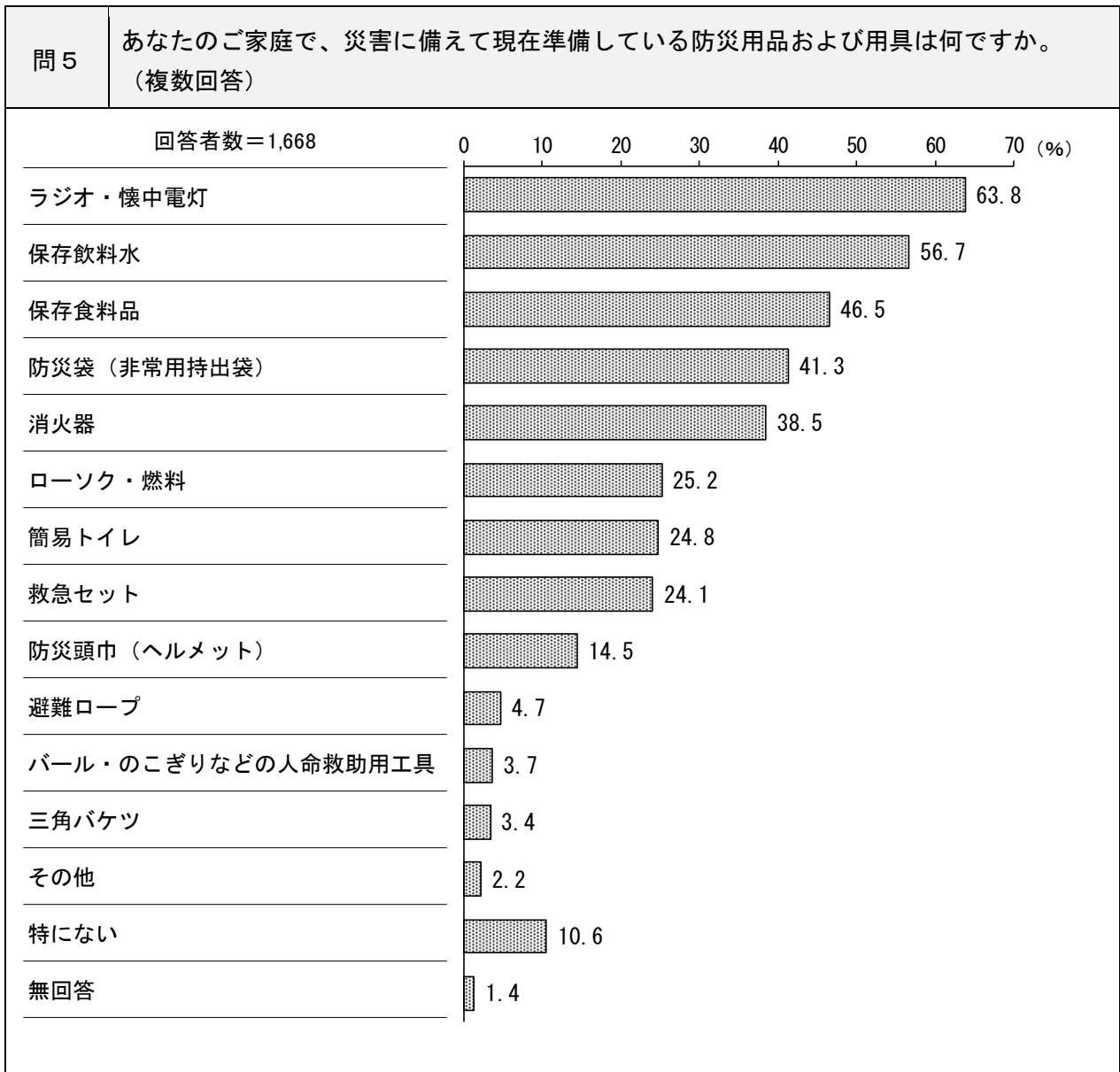
◇「非常用食料・水の準備」が5割を超える



○大地震に備えて家庭で普段から特に心掛けていることは何か聞いたところ、「非常用食料・水の準備」(52.4%)が5割を超えて最も多く、次いで「家具などの転倒防止対策」(25.9%)、「家族との連絡方法の確認」(23.7%)と続いている。

## (3) 家庭内で準備している防災用品・用具

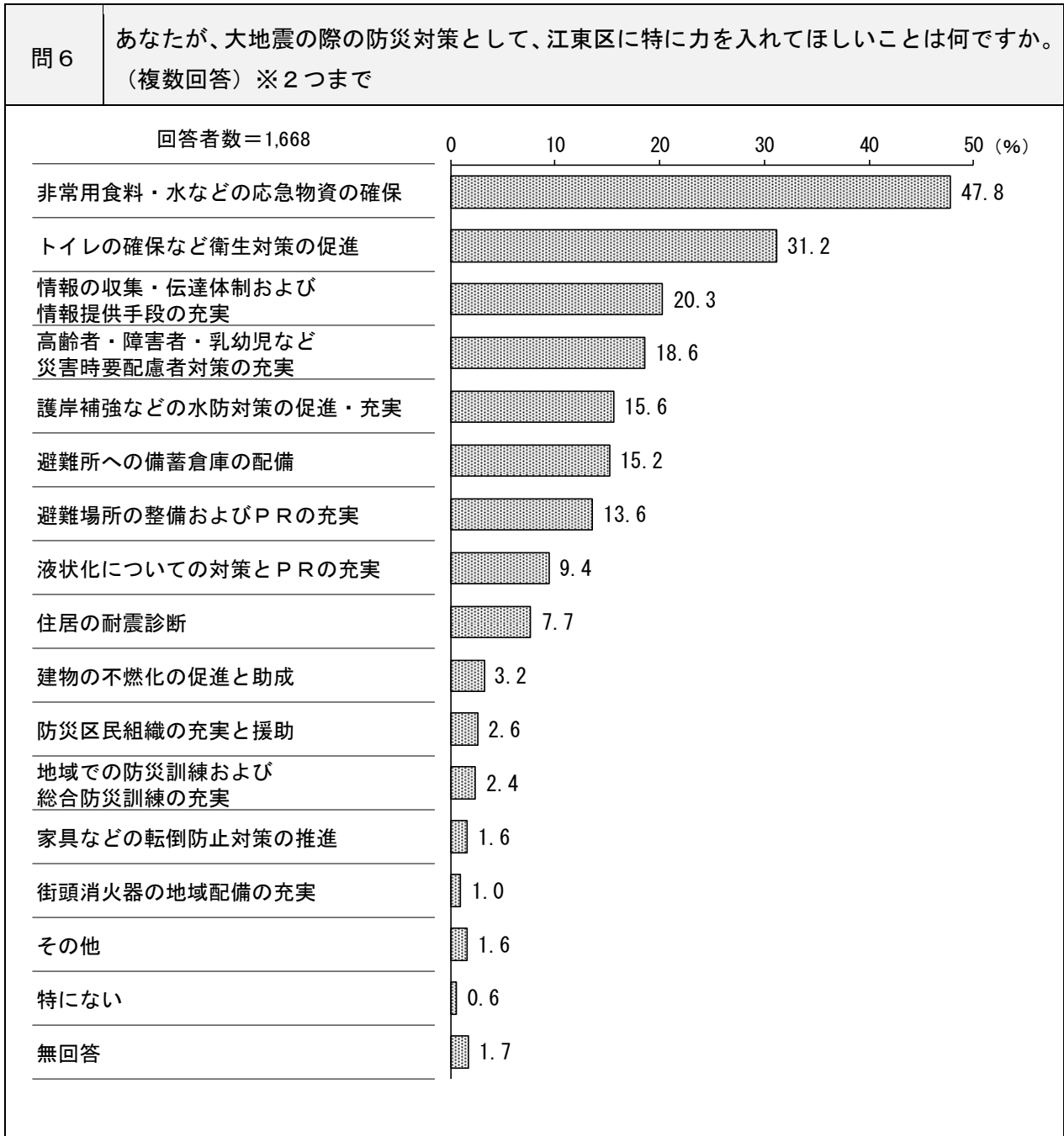
◇「ラジオ・懐中電灯」が6割を超える



○災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「ラジオ・懐中電灯」(63.8%)が6割を超えて最も多く、次いで「保存飲料水」(56.7%)、「保存食料品」(46.5%)と続いている。

(4) 防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」が5割近く



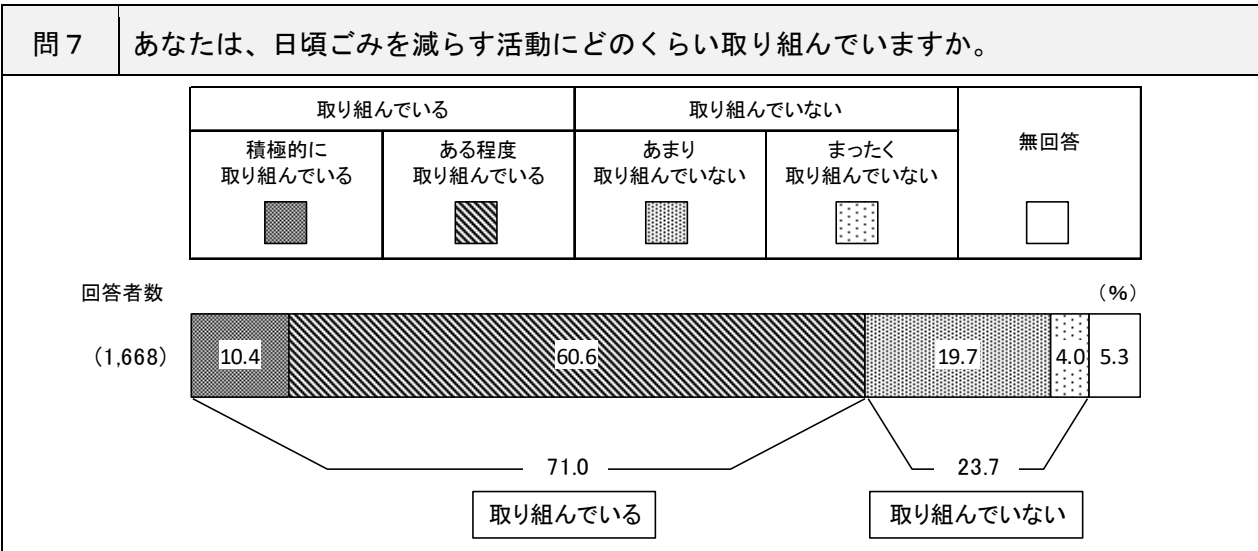
○大地震の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(47.8%)が5割近くで最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(31.2%)、「情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実」(20.3%)と続いている。



### 3 ごみ・リサイクル

#### (1) ごみを減らす活動の取り組み状況

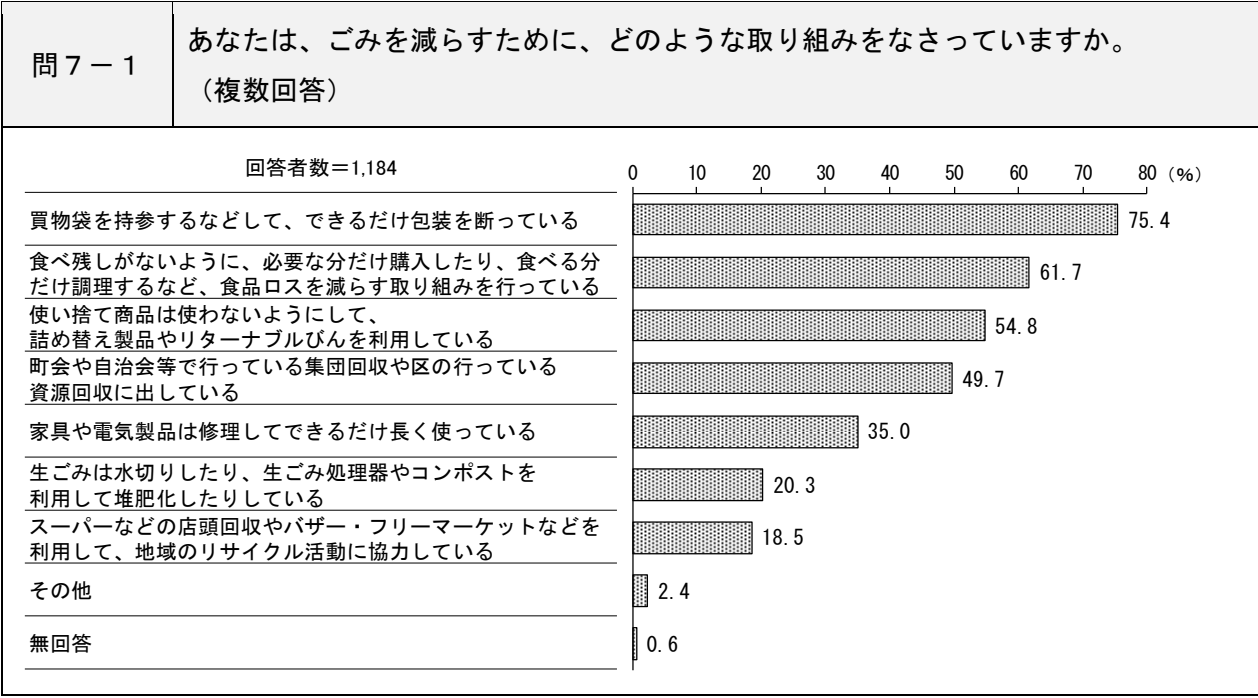
◇《取り組んでいる》は7割を超える



○日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいるか聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(10.4%)と「ある程度取り組んでいる」(60.6%)の2つを合わせた《取り組んでいる》(71.0%)は7割を超えている。

#### (2) ごみを減らすために行っている取り組み

◇「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が7割台半ば



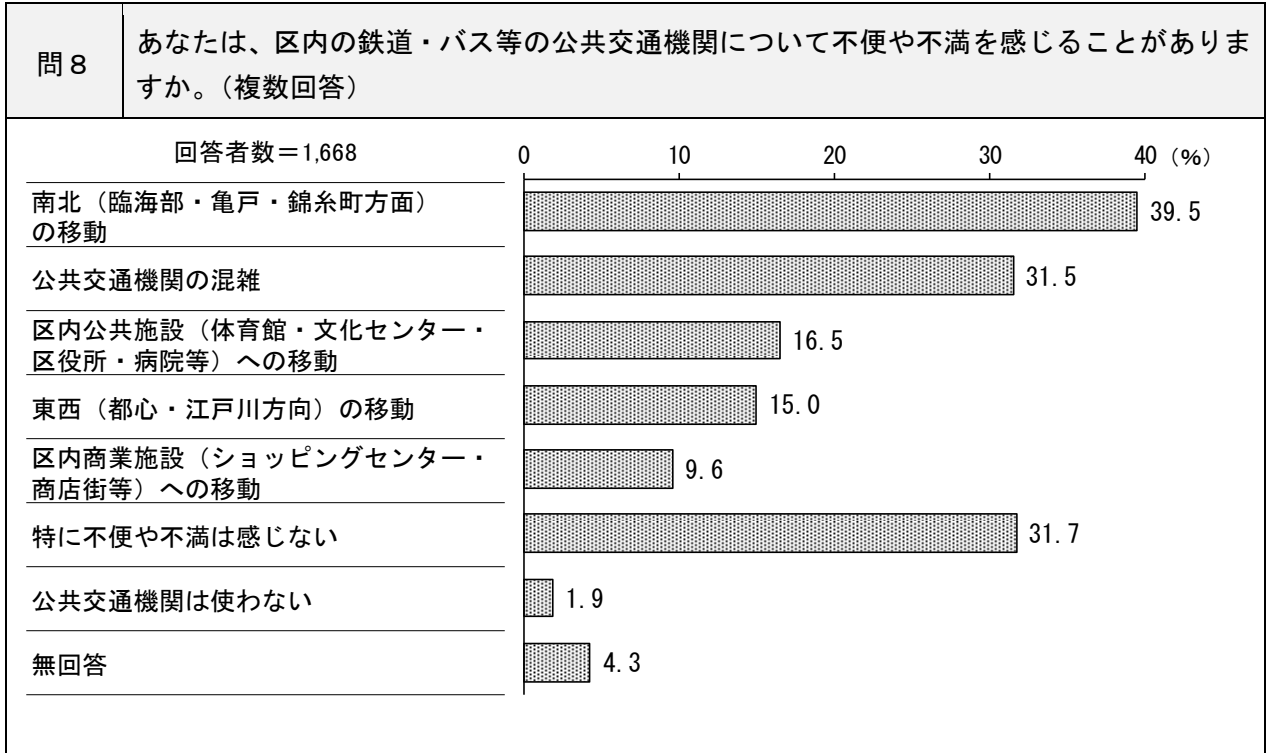
○ごみを減らす活動の取り組み内容を聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(75.4%)が7割台半ばで最も多く、次いで「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(61.7%)、「使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」(54.8%)と続いている。

3 ごみ・リサイクル  
調査結果の概要

## 4 交通

### (1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること

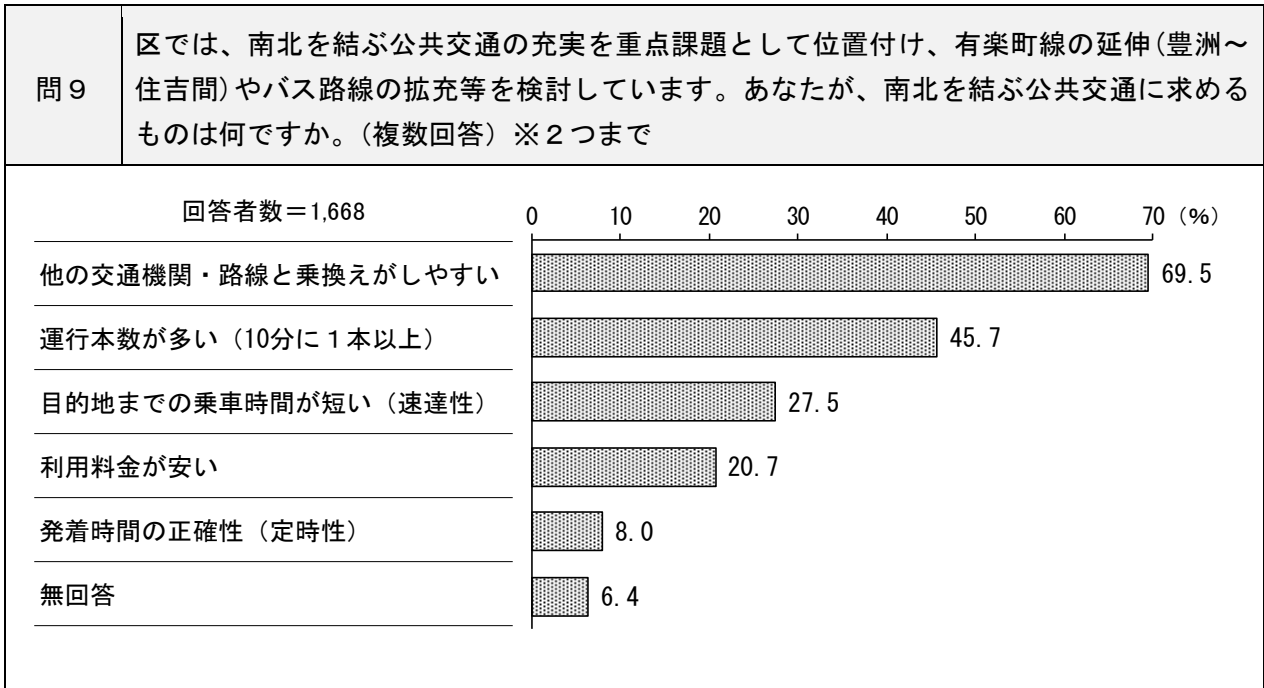
◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」が4割



○区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（39.5%）が4割で最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（31.5%）、「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動」（16.5%）と続いている。一方、「特に不便や不満は感じない」（31.7%）は3割を超えている。

(2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

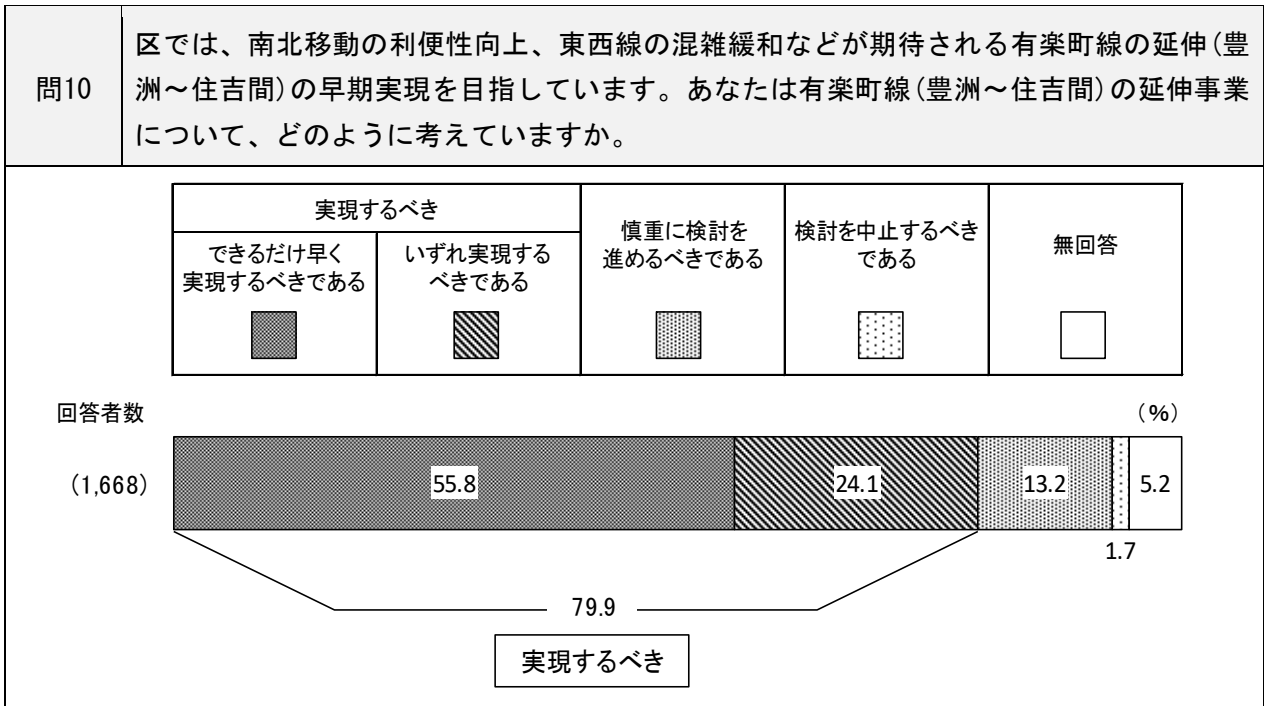
◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が7割



○南北を結ぶ公共交通に求めるものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(69.5%)が7割で最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(45.7%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(27.5%)と続いている。

(3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

◇「実現すべき」は8割



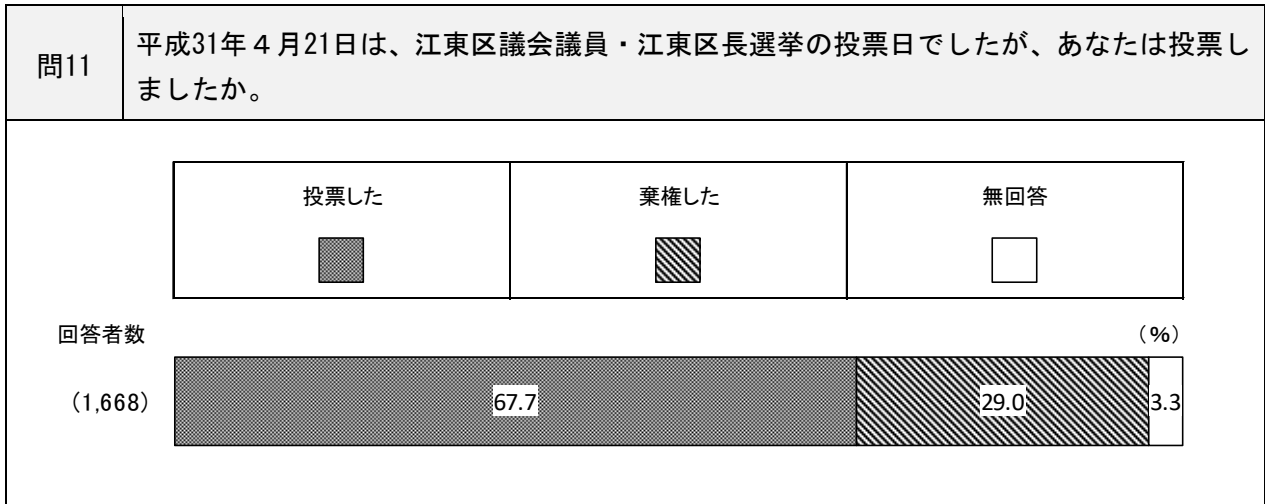
○有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えを聞いたところ、「できるだけ早く実現するべきである」(55.8%)と「いずれ実現するべきである」(24.1%)の2つを合わせた「実現すべき」(79.9%)が8割となっている。また、「慎重に検討を進めるべきである」(13.2%)は1割を超えている。

4 調査結果の概要  
交通

## 5 選挙

### (1) 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無

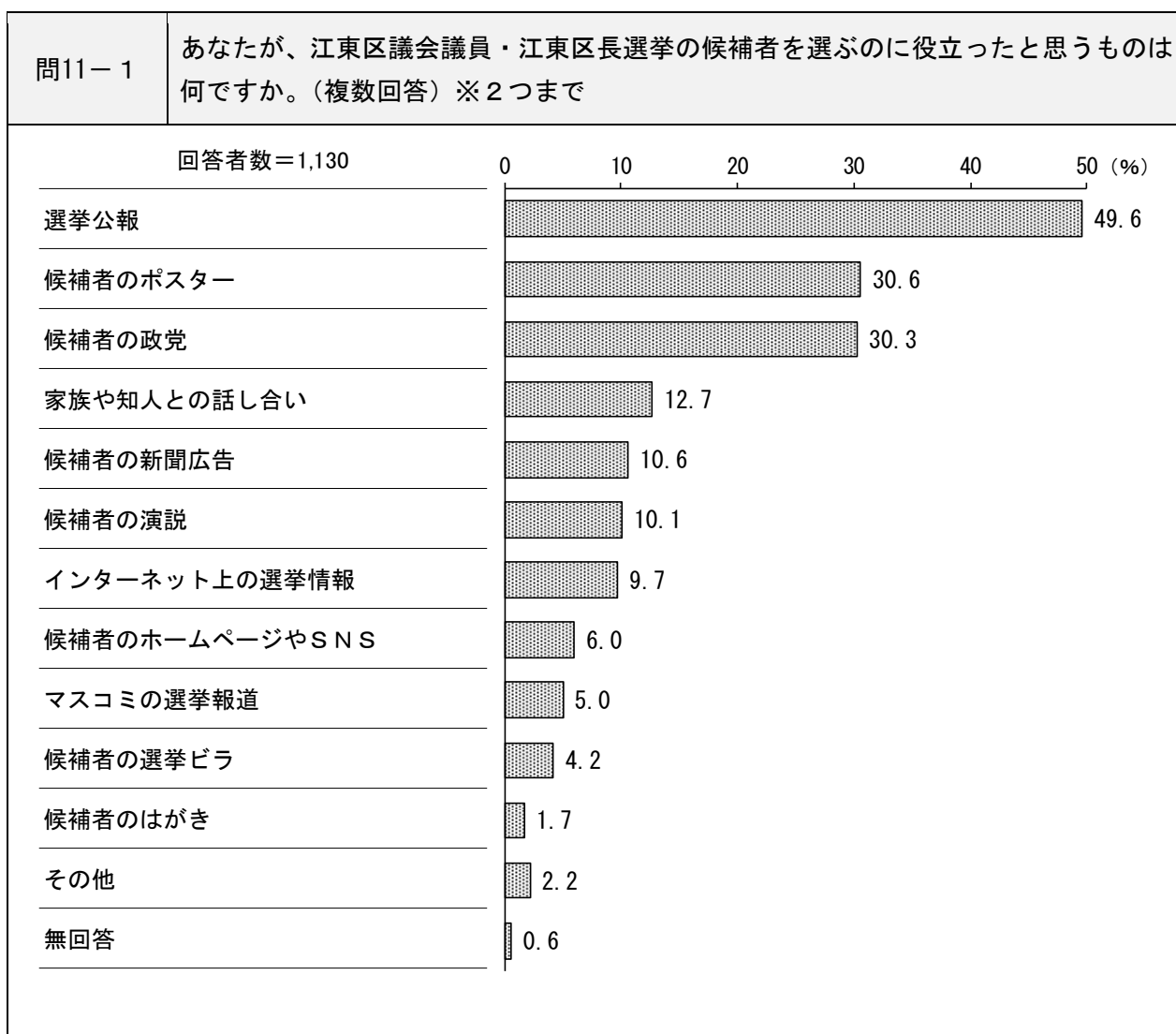
◇「投票した」が7割近く



○平成31年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に投票したか聞いたところ、「投票した」(67.7%)は7割近くとなっている。なお、実際の江東区議会議員選挙の投票率は46.74%、江東区長選挙の投票率は46.72%であった。

## (2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの

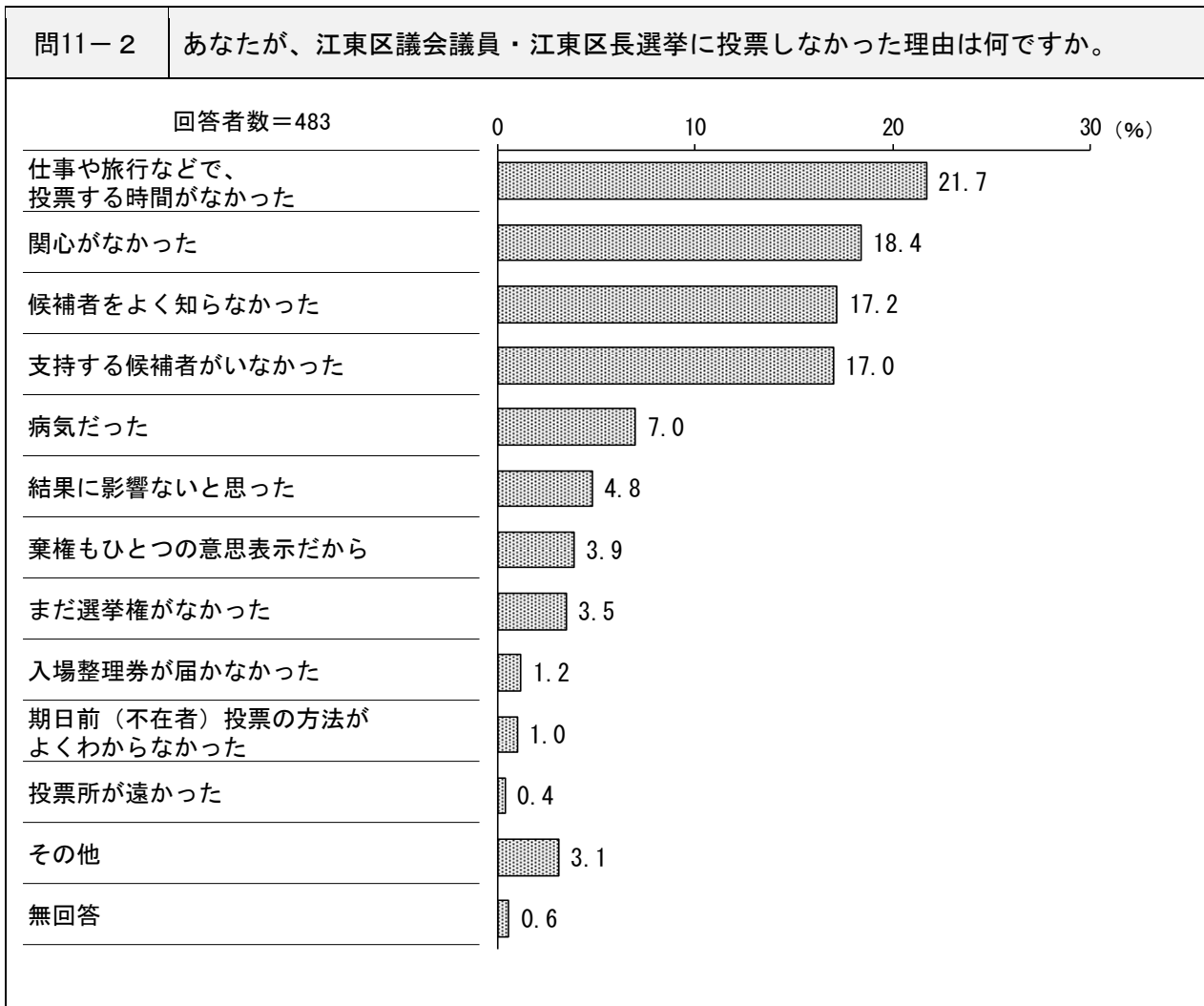
◇「選挙公報」が5割



○平成31年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に「投票した」と答えた方(1,130人)に、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何か聞いたところ、「選挙公報」(49.6%)が5割で最も多く、次いで「候補者のポスター」(30.6%)、「候補者の政党」(30.3%)と続いている。

(3) 投票しなかった理由

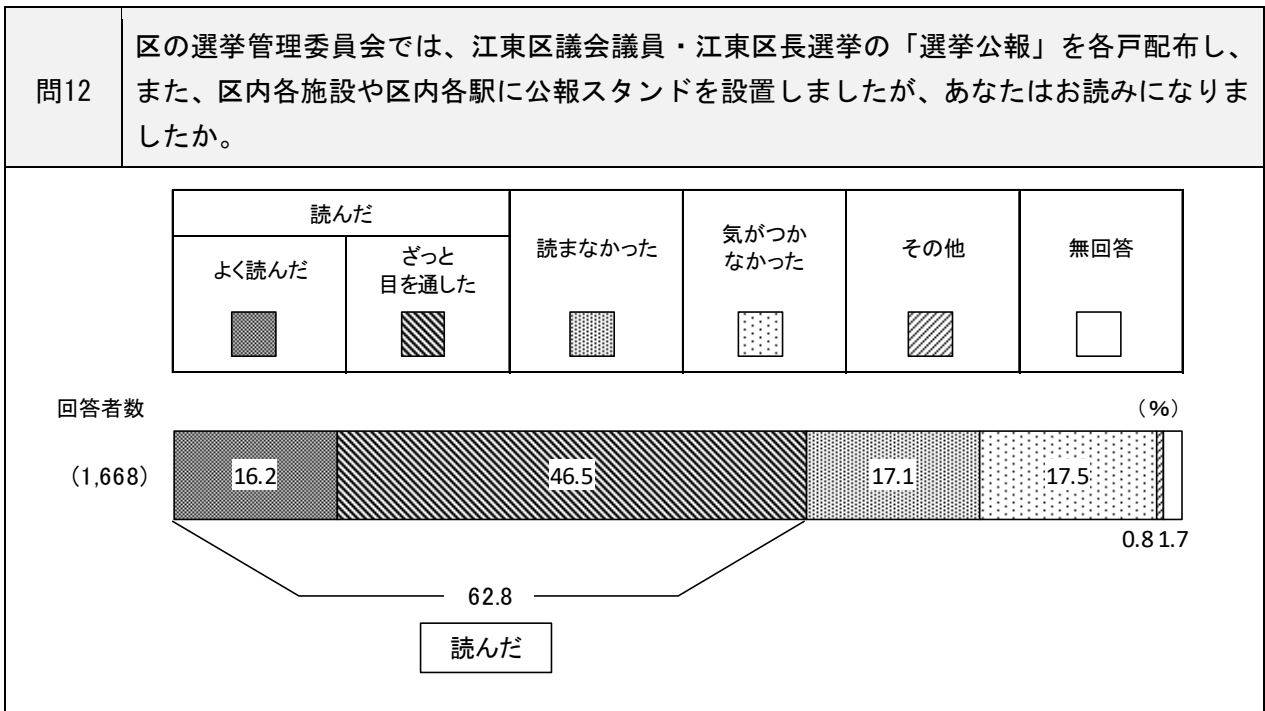
◇「仕事や旅行などで、投票する時間がなかった」が2割を超える



○平成31年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に「棄権した」と答えた方(483人)に、その理由を聞いたところ、「仕事や旅行などで、投票する時間がなかった」(21.7%)が2割を超えて最も多く、次いで「関心がなかった」(18.4%)、「候補者をよく知らなかった」(17.2%)と続いている。

(4) 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」は6割を超える

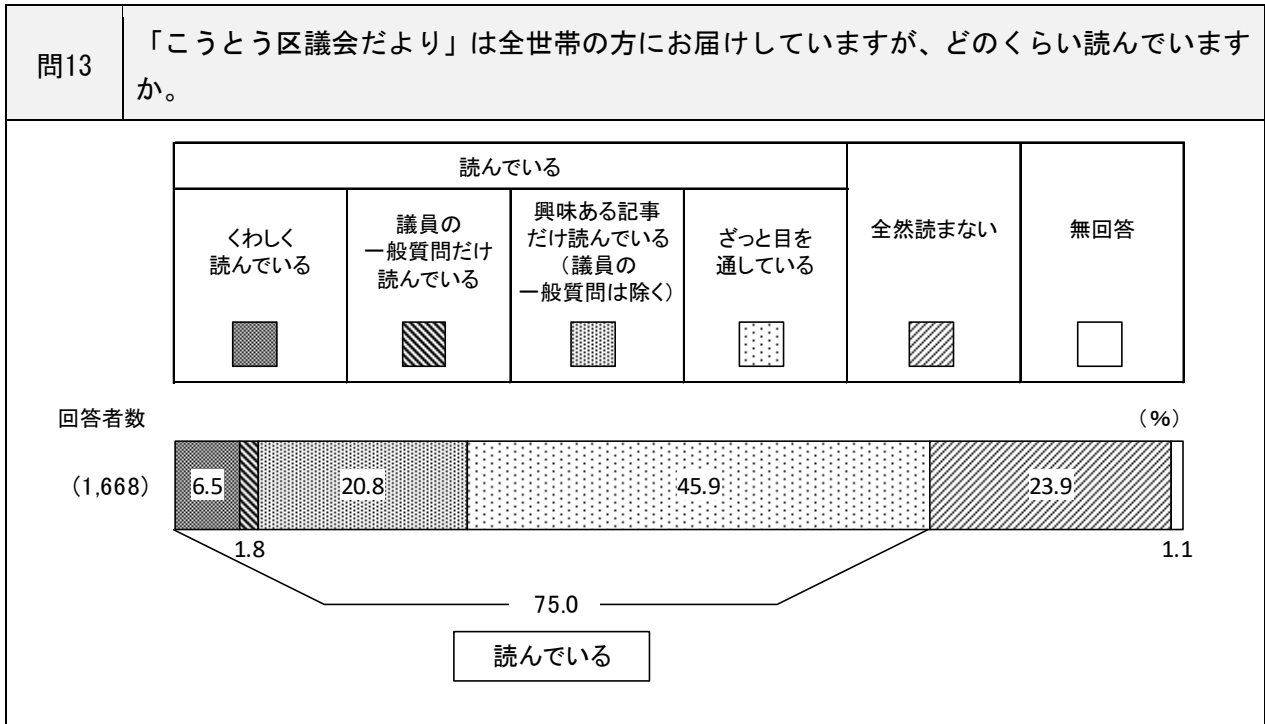


○江東区議会議員・江東区長選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(16.2%)と「ざっと目を通した」(46.5%)の2つを合わせた「読んだ」(62.8%)は6割を超えている。一方、「読まなかった」(17.1%)は2割近く、「気がつかなかった」(17.5%)も2割近くとなっている。

## 6 区議会

### (1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況

◇「読んでいます」は7割台半ば

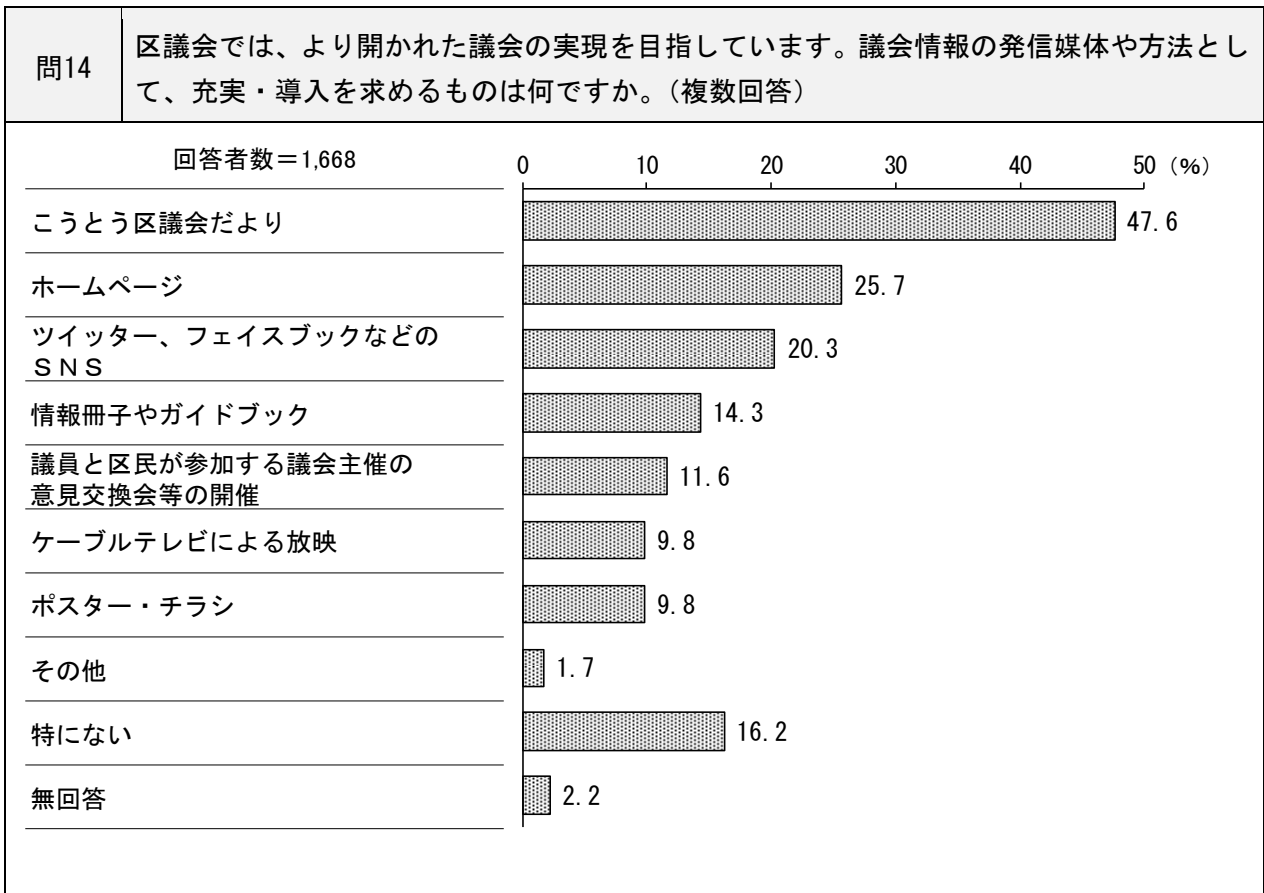


○「こうとう区議会だより」をどのくらい読んでいますか聞いたところ、「くわしく読んでいます」(6.5%)、「議員の一般質問だけ読んでいます」(1.8%)、「興味ある記事だけ読んでいます(議員の一般質問は除く)」(20.8%)、「ざっと目を通している」(45.9%)の4つを合わせた「読んでいます」(75.0%)が7割台半ばとなっている。



(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体

◇「こうとう区議会だより」が5割近く

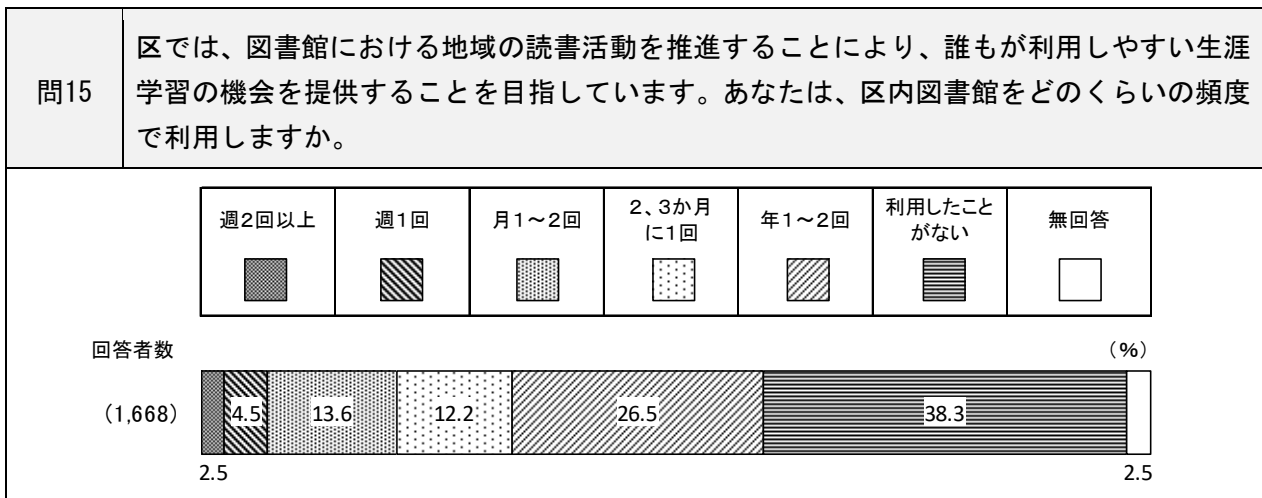


○充実・導入してほしい議会情報の発信媒体を聞いたところ、「こうとう区議会だより」(47.6%)が5割近くで最も多く、次いで「ホームページ」(25.7%)、「ツイッター、フェイスブックなどのSNS」(20.3%)と続いている。

## 7 図書館

### (1) 区内図書館の利用頻度

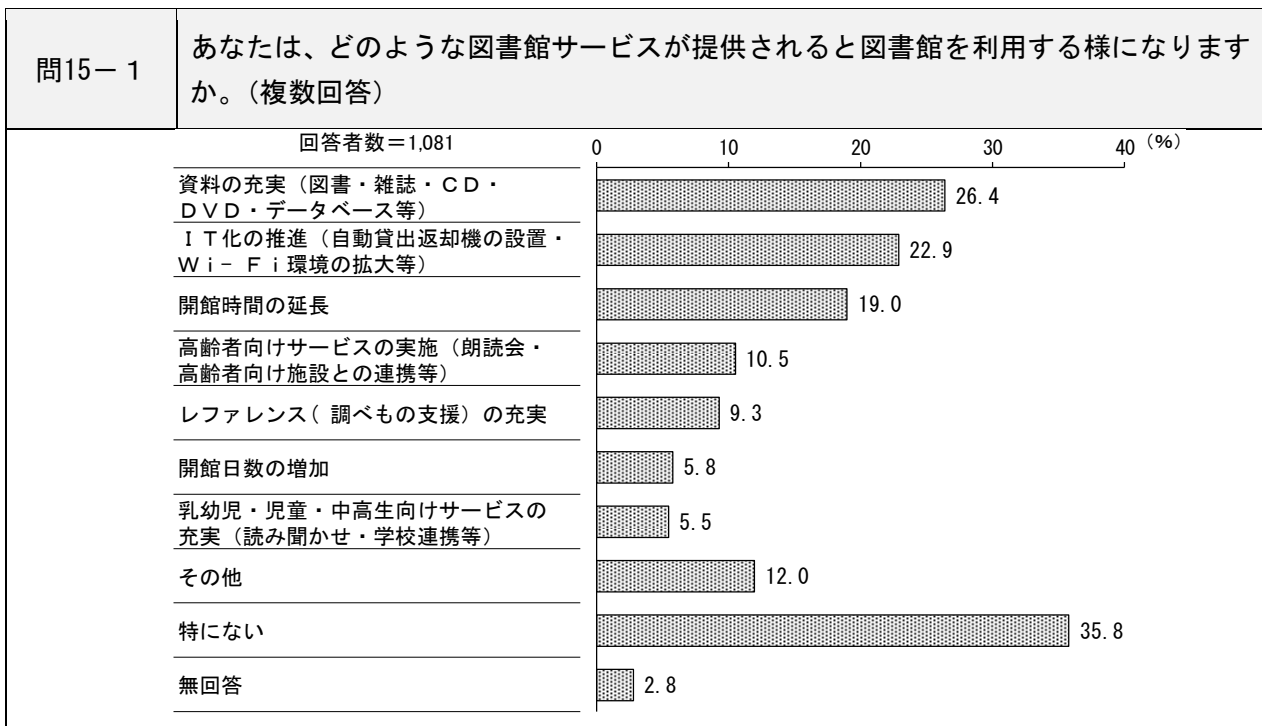
◇「年1～2回」が3割近く



○区内図書館の利用頻度を聞いたところ、「年1～2回」(26.5%)が3割近くとなっている。一方、「利用したことがない」(38.3%)は4割近くとなっている。

### (2) 図書館サービスへの要望

◇「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベース等)」が2割台半ば

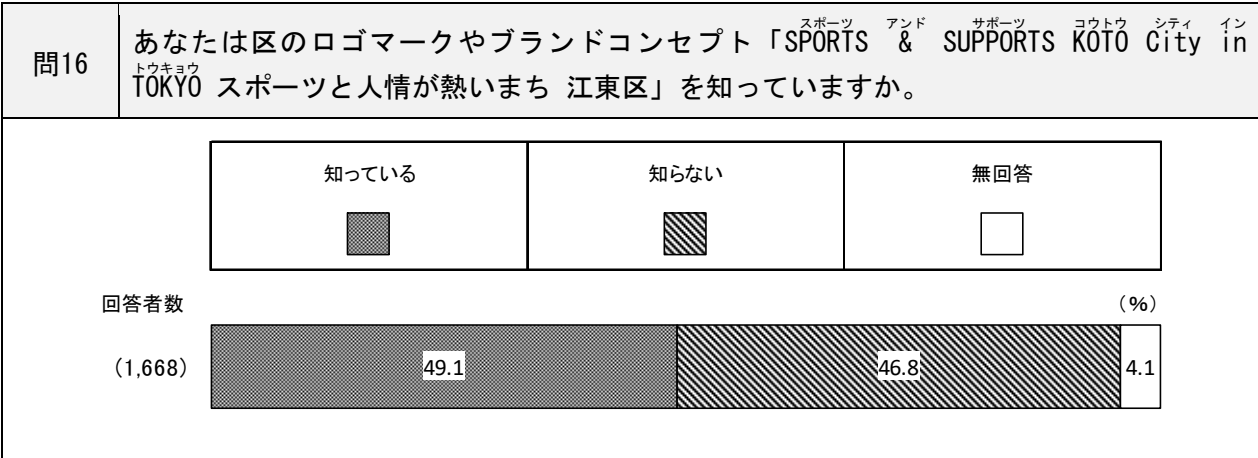


○区内図書館の利用頻度を、「年1～2回」か「利用したことがない」と答えた方(1,081人)に、どのようなサービスが提供されると図書館を利用するか聞いたところ、「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベース等)」(26.4%)が2割台半ばで最も多く、次いで「IT化の推進(自動貸出返却機の設置・Wi-Fi環境の拡大等)」(22.9%)、「開館時間の延長」(19.0%)と続いている。

## 8 江東区ブランディング戦略

### (1) 区のロゴマークやブランドコンセプトの認知状況

◇「知っている」がほぼ5割



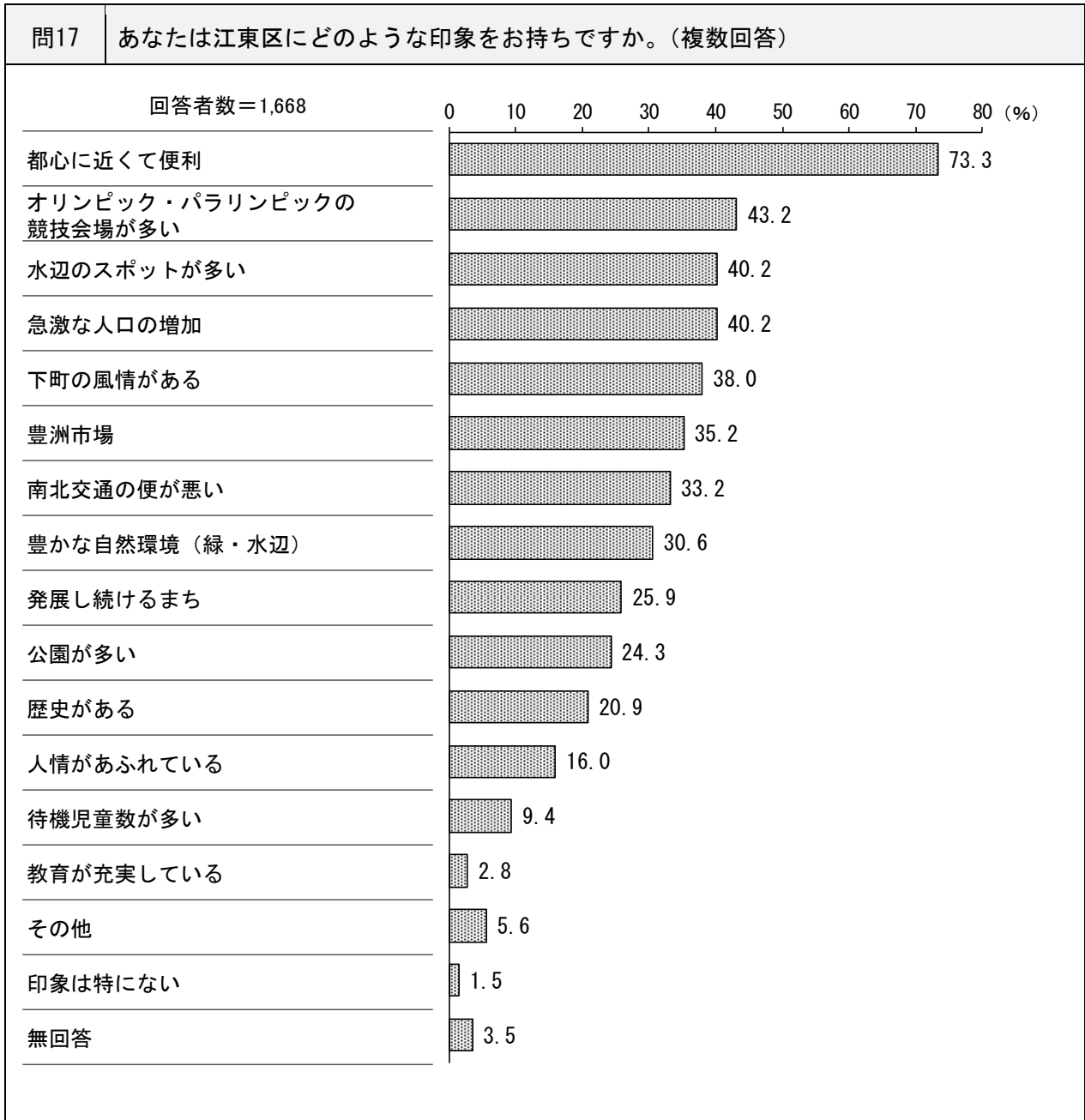
8 調査結果の概要  
江東区ブランディング戦略

○区のロゴマークやブランドコンセプトを知っているか聞いたところ、「知っている」(49.1%)はほぼ5割、「知らない」(46.8%)が5割近くとなっている。



(2) 区に持っている印象

◇「都心に近くて便利」が7割を超える



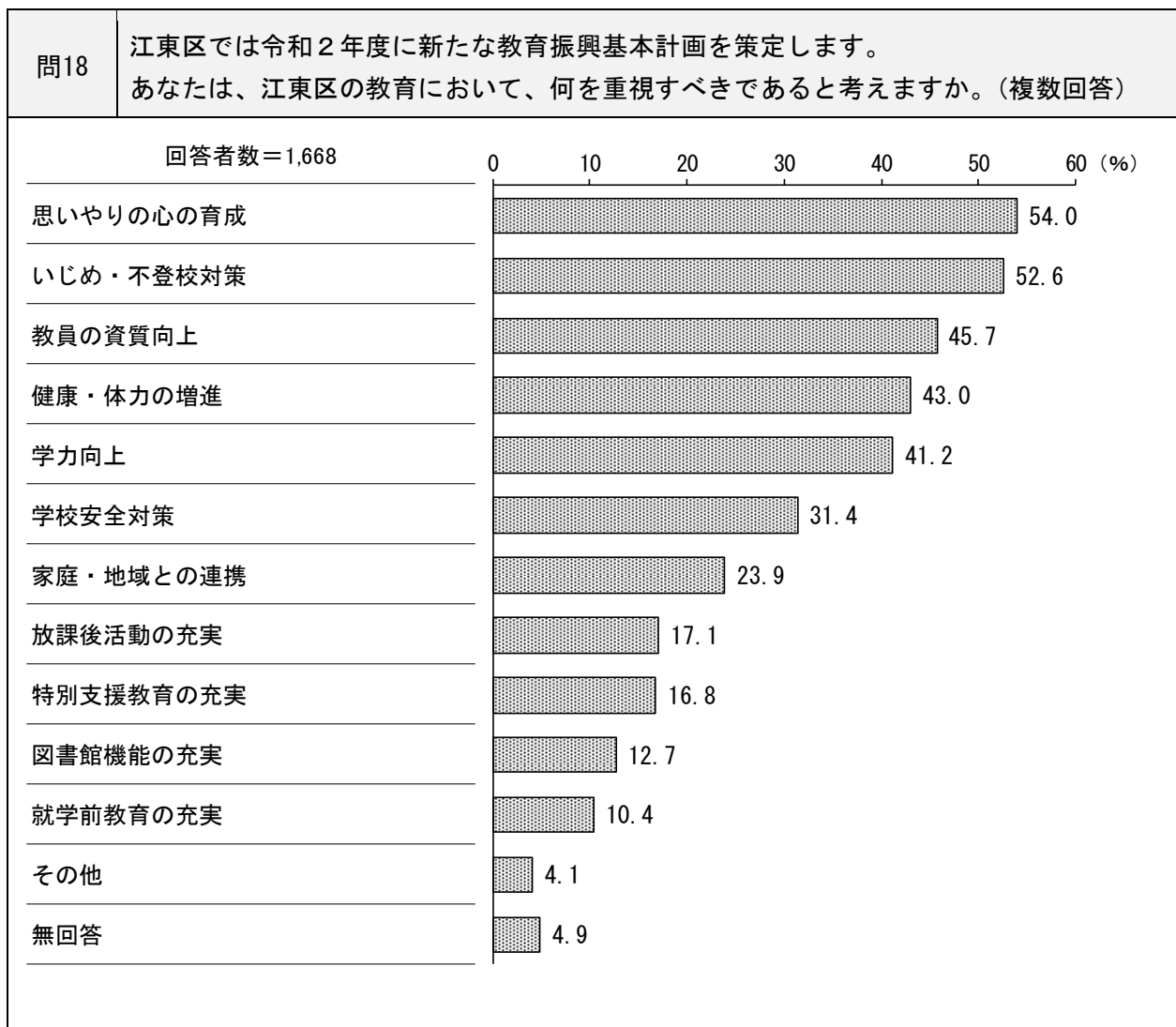
○江東区にどのような印象を持っているか聞いたところ、「都心に近くて便利」(73.3%)が7割を超えて最も多く、次いで「オリンピック・パラリンピックの競技会場が多い」(43.2%)、「水辺のスポットが多い」「急激な人口の増加」(40.2%)と続いている。

## 9 教育

(1) 区の教育において重視すべきもの

新規

◇「思いやりの心の育成」と「いじめ・不登校対策」が5割台

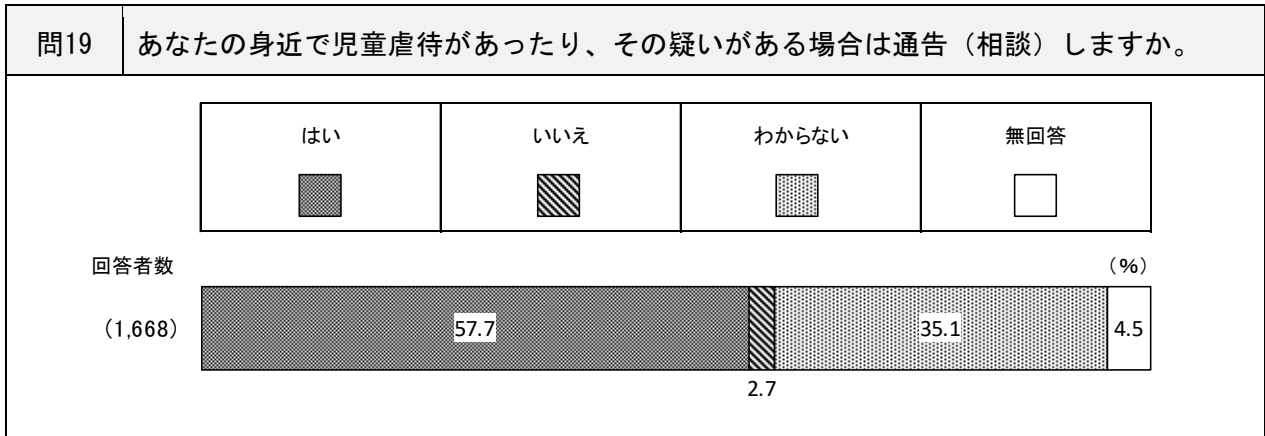


○江東区の教育において、何を重視すべきであるか聞いたところ、「思いやりの心の育成」(54.0%)が5割台半ばで最も多く、次いで「いじめ・不登校対策」(52.6%)、「教員の資質向上」(45.7%)と続いている。

## 10 児童虐待

### (1) 身近で児童虐待があった場合の通告（相談）の有無

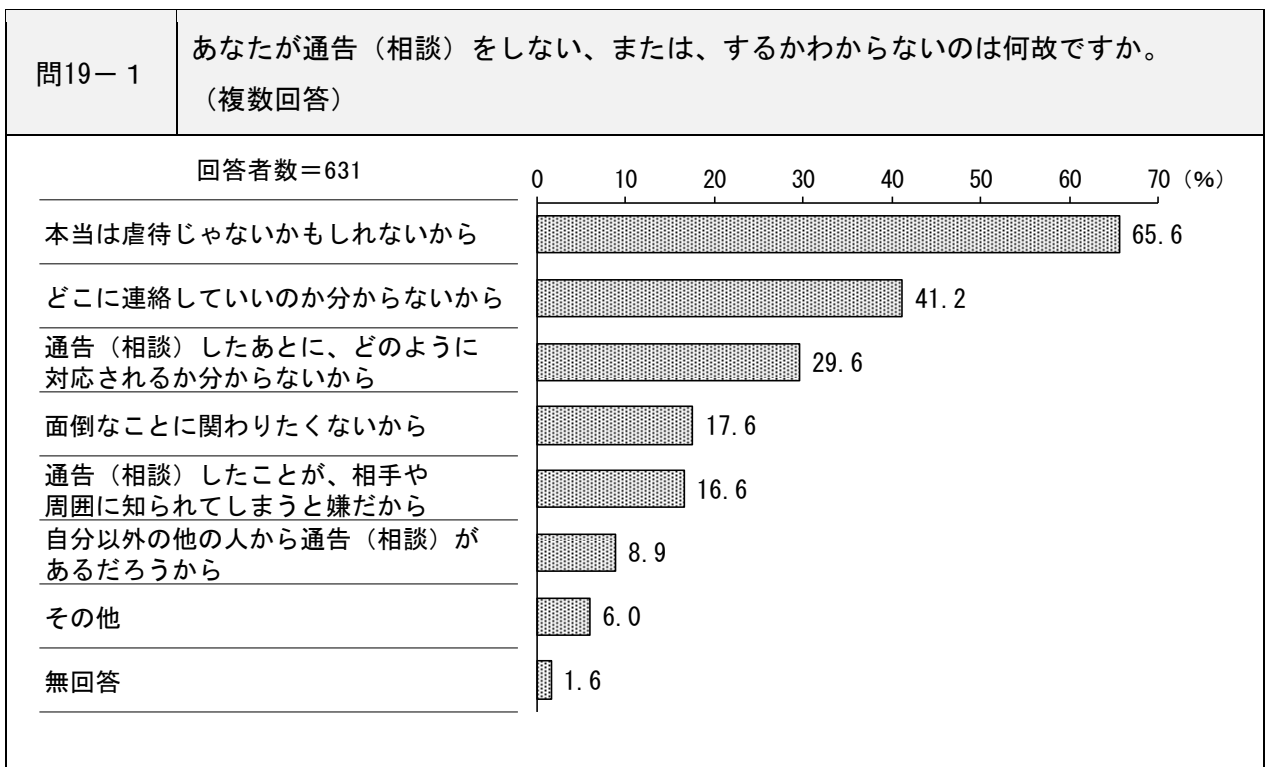
◇「通告（相談）する」が6割近く



○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合は通告（相談）するか聞いたところ、「はい」(57.7%)が6割近く、「いいえ」(2.7%)はわずかとなっている。また、「わからない」(35.1%)は3割台半ばとなっている。

### (2) 通告（相談）をしない、または、するかわからない理由

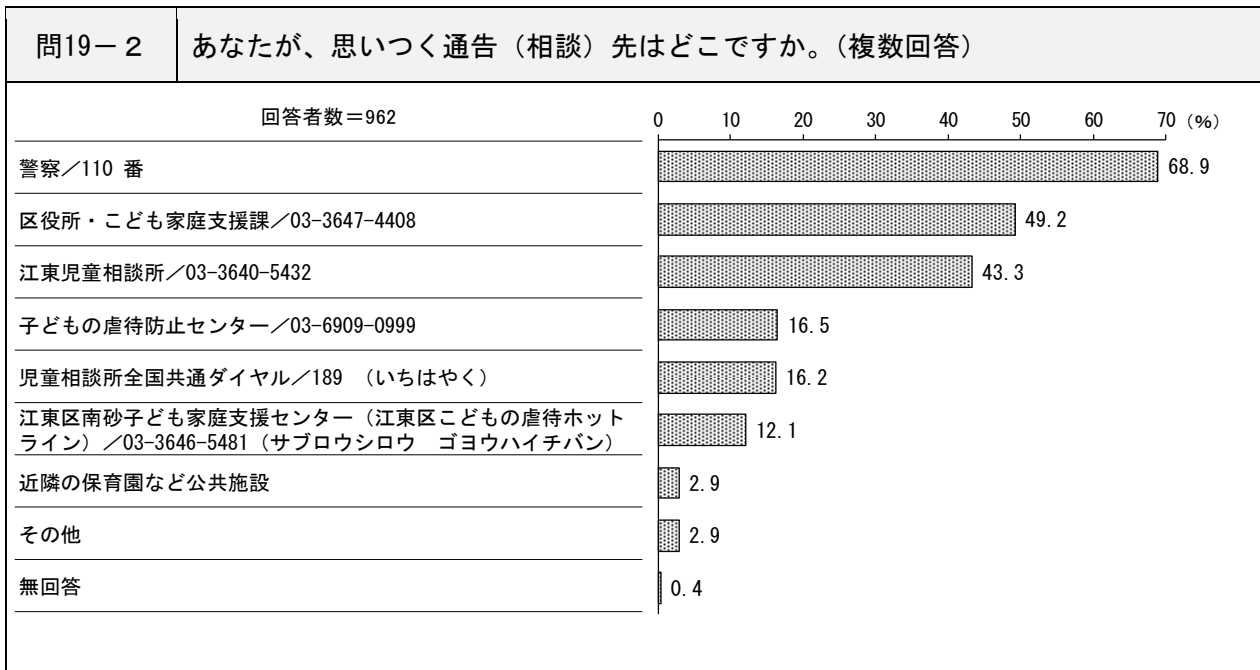
◇「本当は虐待じゃないかもしれないから」が6割台半ば



○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告（相談）をしない、または、するかわからないと答えた方(631人)に、その理由を聞いたところ、「本当は虐待じゃないかもしれないから」(65.6%)が6割台半ばで最も多く、次いで「どこに連絡していいのかわからないから」(41.2%)、「通告（相談）したあとに、どのように対応されるかわからないから」(29.6%)と続いている。

## (3) 思いつく通告（相談）先

◇「警察／110 番」が7割近く



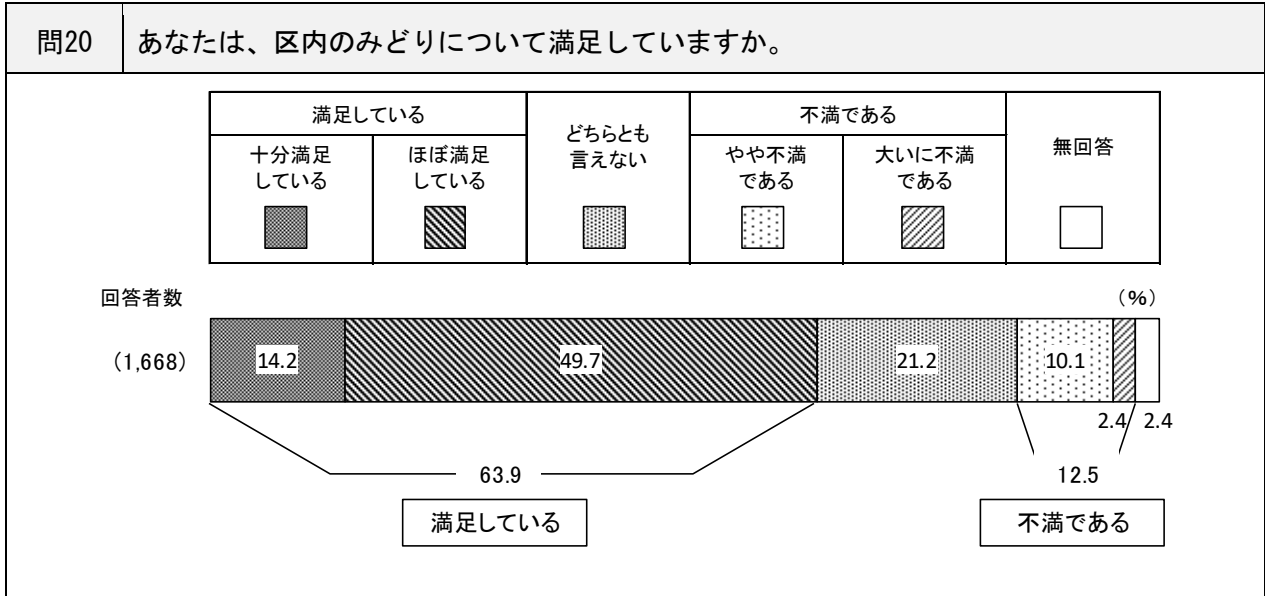
○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告（相談）をすると答えた方（962人）に、思いつく通告先を聞いたところ、「警察／110 番」（68.9%）が7割近くで最も多く、次いで「区役所・こども家庭支援課／03-3647-4408」（49.2%）、「江東児童相談所／03-3640-5432」（43.3%）と続いている。

## 11 緑化推進

### (1) 区内のみどりの満足度

新規

◇《満足している》が6割を超える



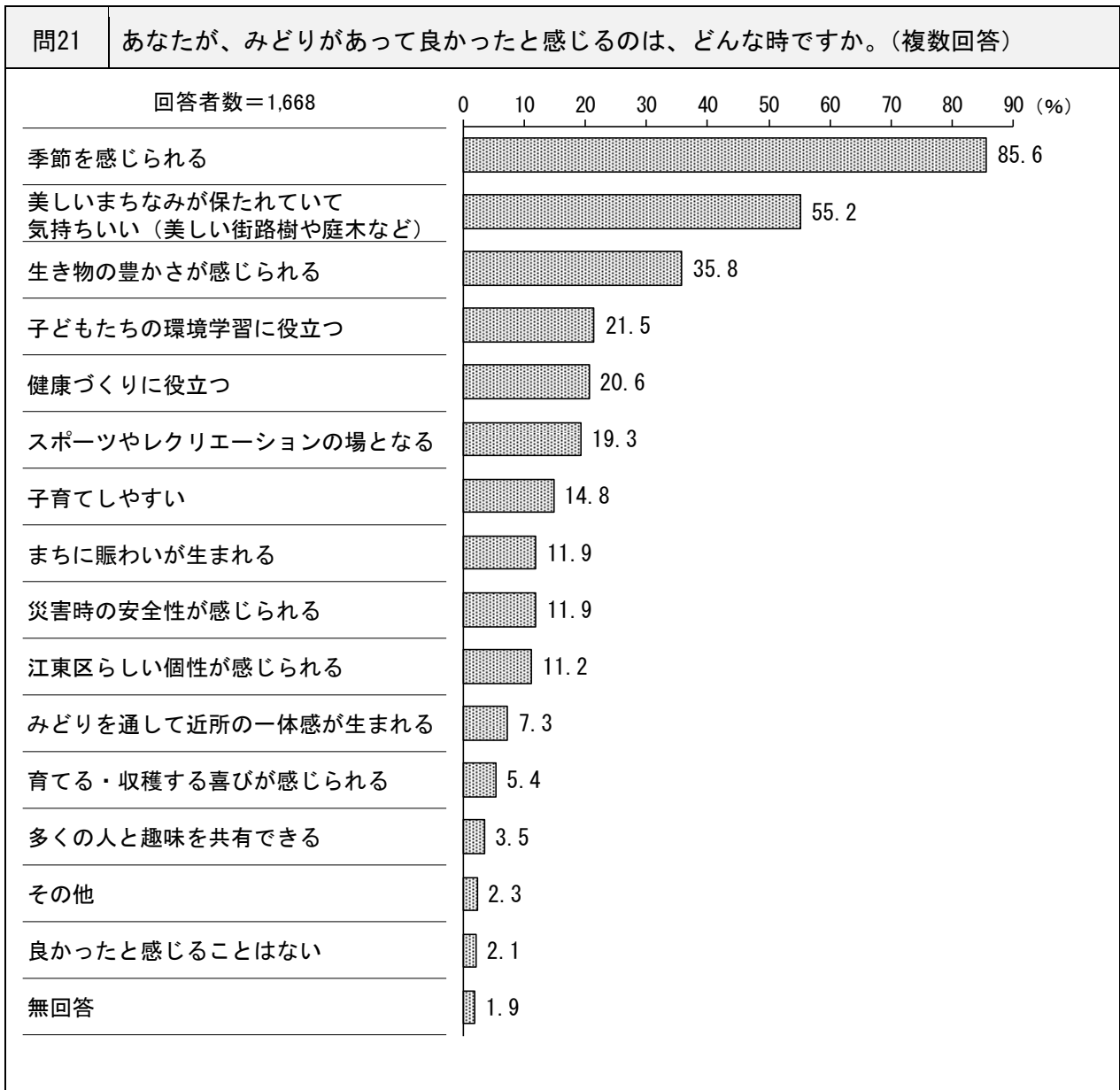
○区内のみどりについて満足しているか聞いたところ、「十分満足している」(14.2%)と「ほぼ満足している」(49.7%)の2つを合わせた《満足している》(63.9%)は6割を超えている。一方、「やや不満である」(10.1%)と「大いに不満である」(2.4%)の2つを合わせた《不満である》(12.5%)は1割を超えている。



(2) どんな時に、みどりがあって良かったと感じるか

新規

◇「季節を感じられる」が8割台半ば

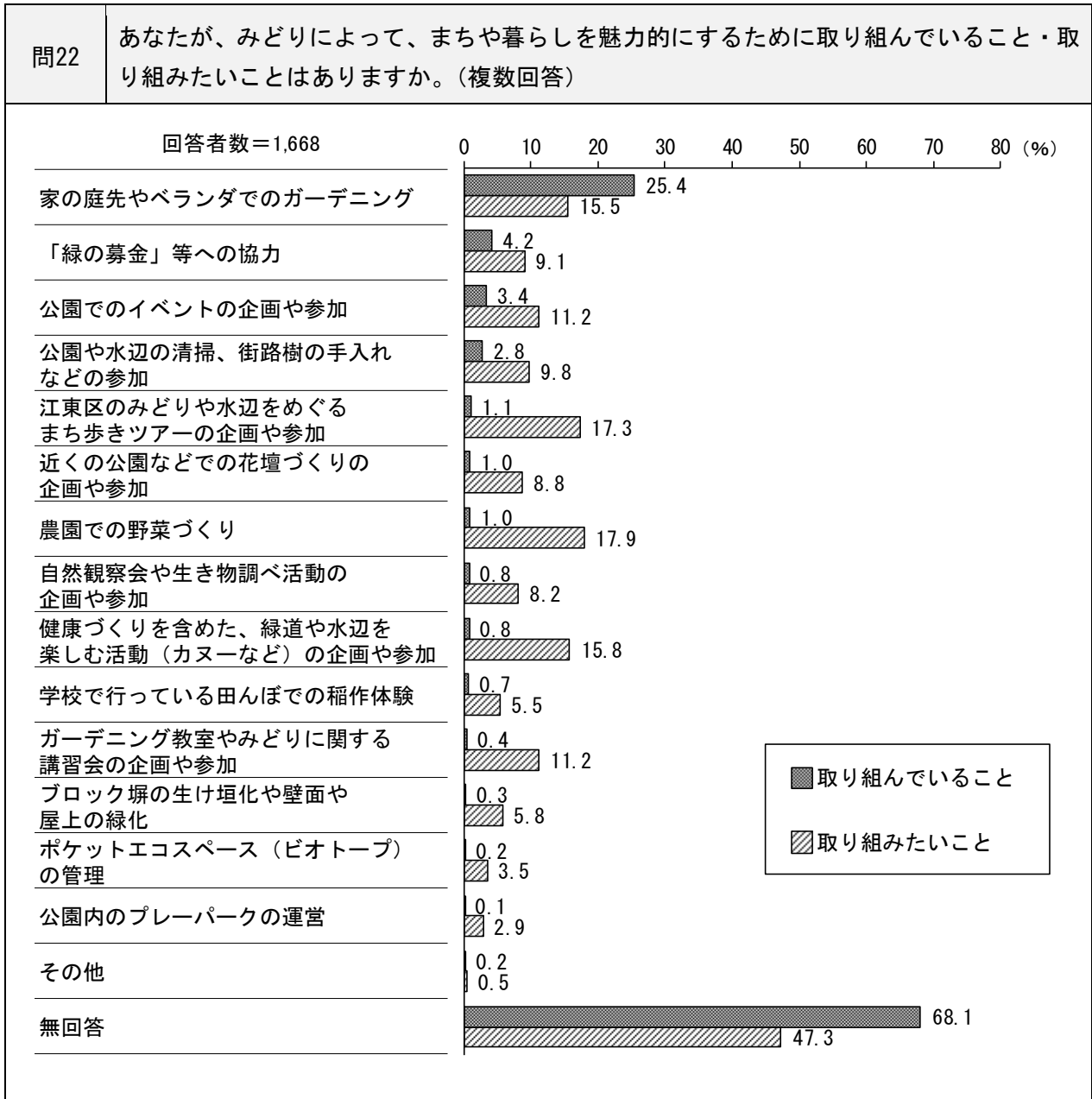


○みどりがあって良かったと感じるのは、どんな時か聞いたところ、「季節を感じられる」(85.6%)が8割台半ばで最も多く、次いで「美しいまちなみが保たれていて気持ちいい(美しい街路樹や庭木など)」(55.2%)、「生き物の豊かさが感じられる」(35.8%)と続いている。

(3) 取り組んでいる、または今後取り組みたいと思うみどりに関する事業

新規

- ◇取り組んでいることでは、「家の庭先やベランダでのガーデニング」が2割台半ば
- ◇取り組みたいことでは、「農園での野菜づくり」が2割近く



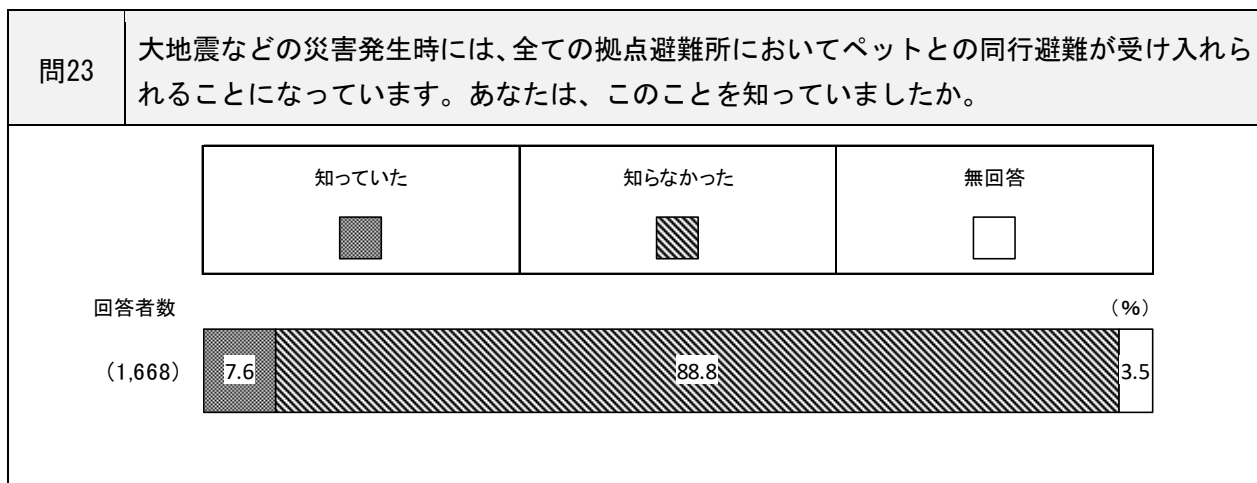
○みどりによって、まちや暮らしを魅力的にするために取り組んでいること・取り組みたいことはあるか聞いたところ、取り組んでいることでは、「家の庭先やベランダでのガーデニング」(25.4%)が2割台半ばで最も多く、次いで「緑の募金」等への協力(4.2%)、「公園でのイベントの企画や参加」(3.4%)と続いている。一方、取り組みたいことでは、「農園での野菜づくり」(17.9%)が2割近くで最も多く、次いで「江東区のみどりや水辺をめぐるまち歩きツアーの企画や参加」(17.3%)、「健康づくりを含めた、緑道や水辺を楽しむ活動(カヌーなど)の企画や参加」(15.8%)と続いている。

## 12 ペットの同行避難

### (1) ペットの同行避難の認知状況

新規

◇「知らなかった」が9割近く

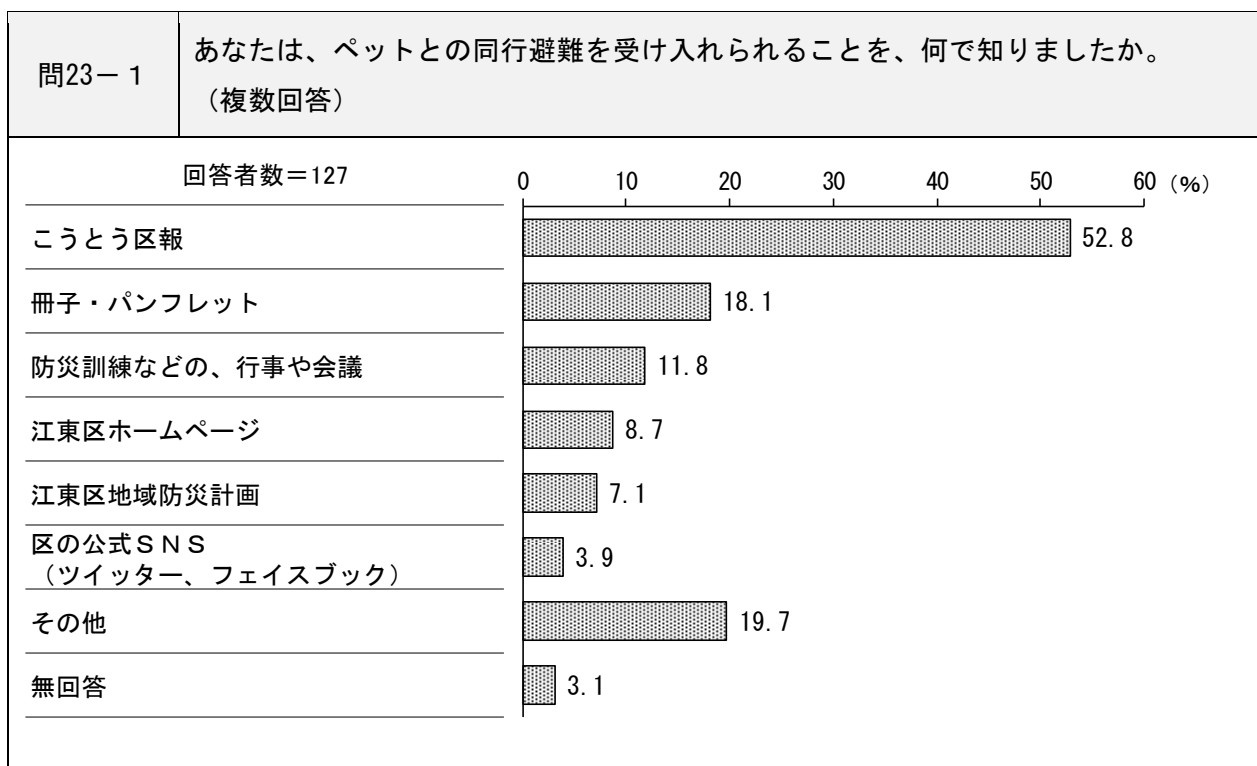


○ペットとの同行避難について知っているか聞いたところ、「知っていた」(7.6%)が1割未満、「知らなかった」(88.8%)が9割近くとなっている。

### (2) ペットの同行避難の認知媒体

新規

◇「こうとう区報」が5割を超える



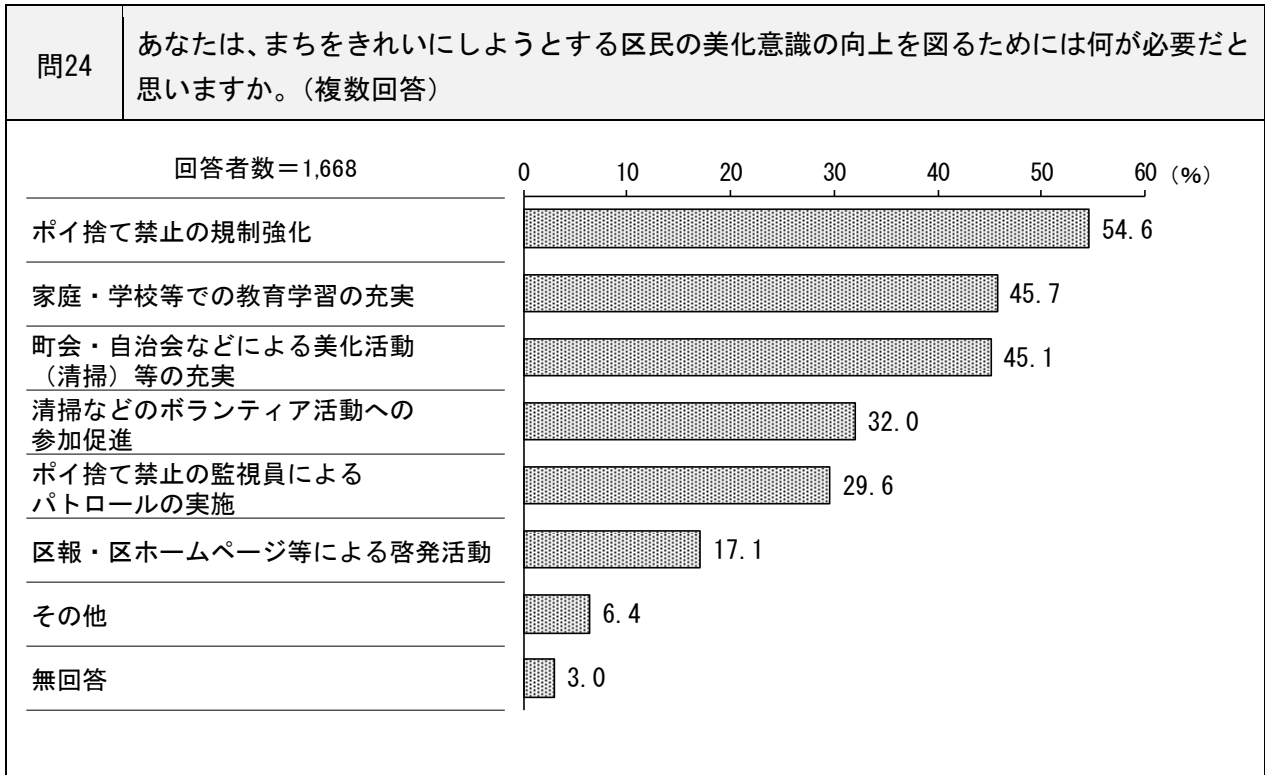
○ペットとの同行避難を知っていると答えた方(127人)に、何で知ったかを聞いたところ、「こうとう区報」(52.8%)が5割を超えて最も多く、次いで「冊子・パンフレット」(18.1%)、「防災訓練などの、行事や会議」(11.8%)と続いている。

## 13 環境美化

(1) 区民の環境美化意識の向上を図るために必要だと思うもの

新規

◇「ポイ捨て禁止の規制強化」が5割台半ば

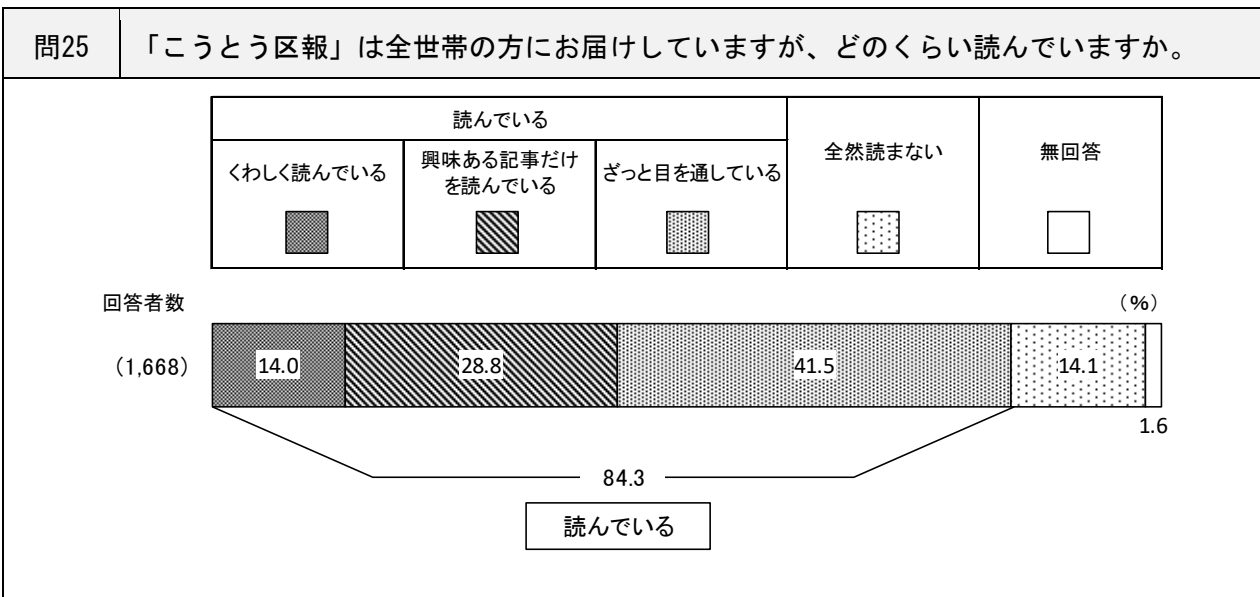


○区民の美化意識の向上を図るためには何が必要か聞いたところ、「ポイ捨て禁止の規制強化」(54.6%)が5割台半ばで最も多く、次いで「家庭・学校等での教育学習の充実」(45.7%)、「町会・自治会などによる美化活動(清掃)等の充実」(45.1%)と続いている。

# 14 広報

## (1) 「こうとう区報」の閲読状況

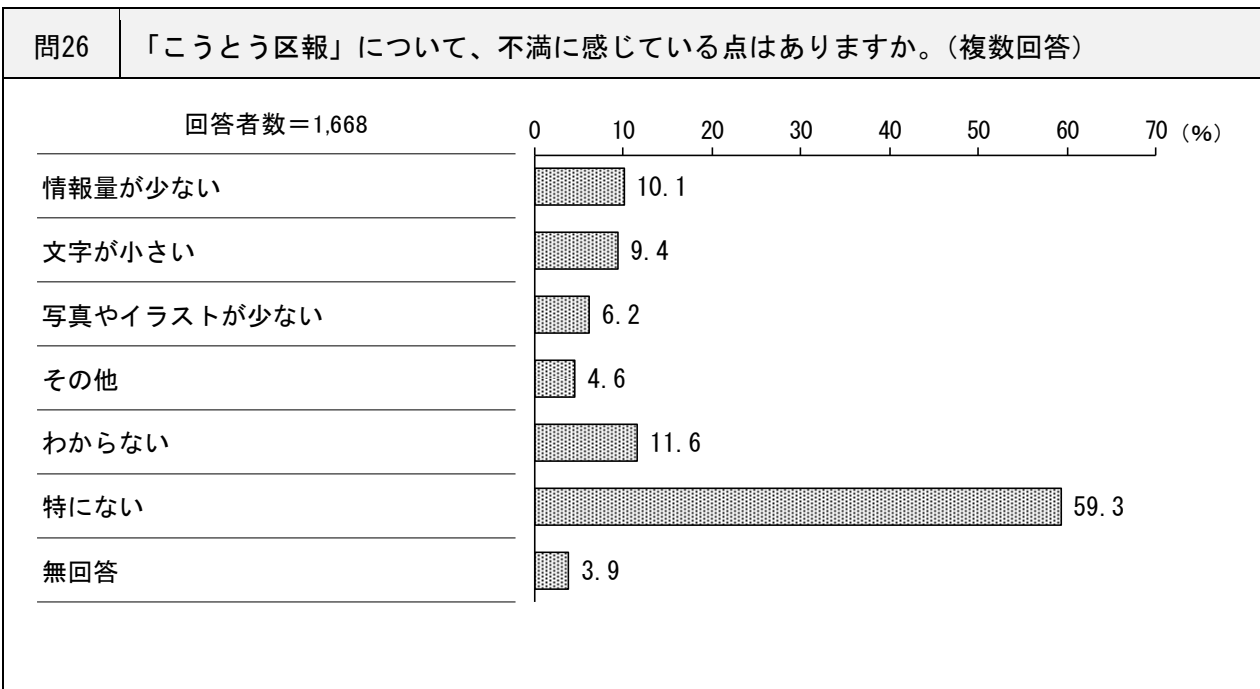
◇「読んでいます」は8割台半ば



○「こうとう区報」をどのくらい読んでいますか聞いたところ、「くわしく読んでいる」(14.0%)、「興味ある記事だけを読んでいる」(28.8%)、「ざっと目を通して読んでいる」(41.5%)の3つを合わせた「読んでいます」(84.3%)が8割台半ばとなっている。

## (2) 「こうとう区報」について、不満に感じている点 新規

◇「情報量が少ない」が1割

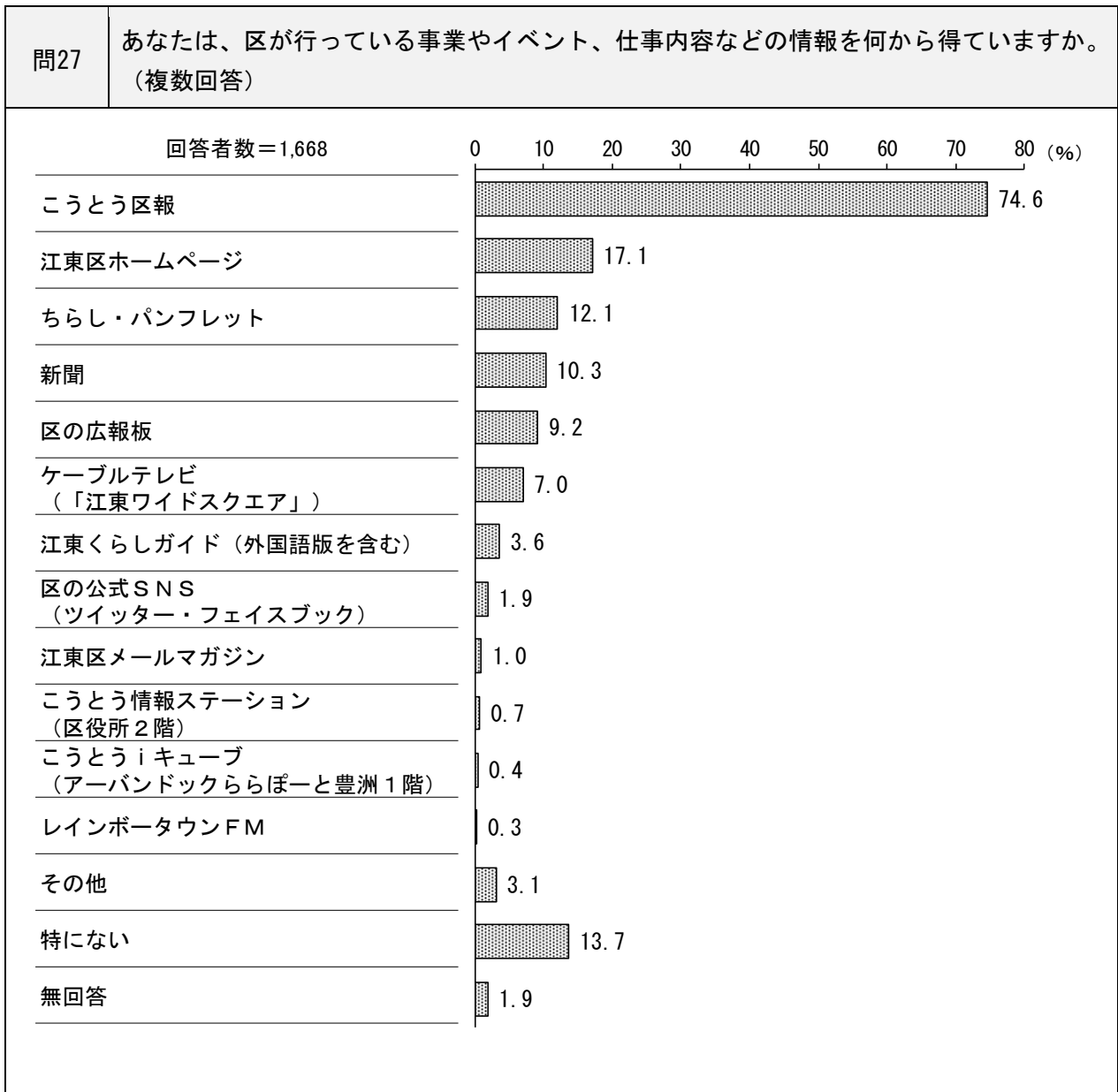


○「こうとう区報」について、不満に感じている点を聞いたところ、不満点としては、「情報量が少ない」(10.1%)が1割で最も多く、次いで「文字が小さい」(9.4%)、「写真やイラストが少ない」(6.2%)と続いている。一方、「特にない」(59.3%)はほぼ6割となっている。

14 調査結果の概要  
広報

(3) 区が行っている事業やイベント、仕事内容などの認知媒体

◇「こうとう区報」が7割台半ば

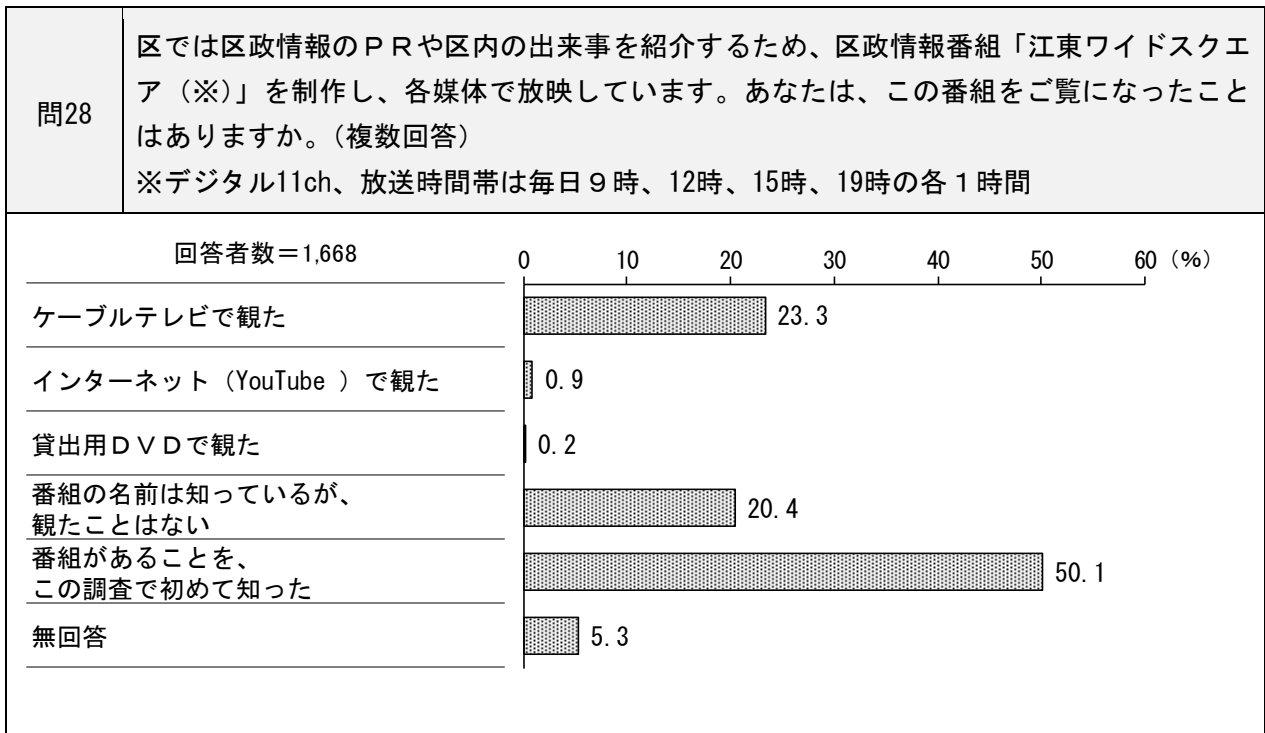


○区が行っている事業やイベント、仕事内容などの情報を何から得ているか聞いたところ、「こうとう区報」(74.6%)が7割台半ばで最も多く、次いで「江東区ホームページ」(17.1%)、「ちらし・パンフレット」(12.1%)と続いている。

(4) 「江東ワイドスクエア」の視聴状況

新規

◇「ケーブルテレビで観た」が2割を超える

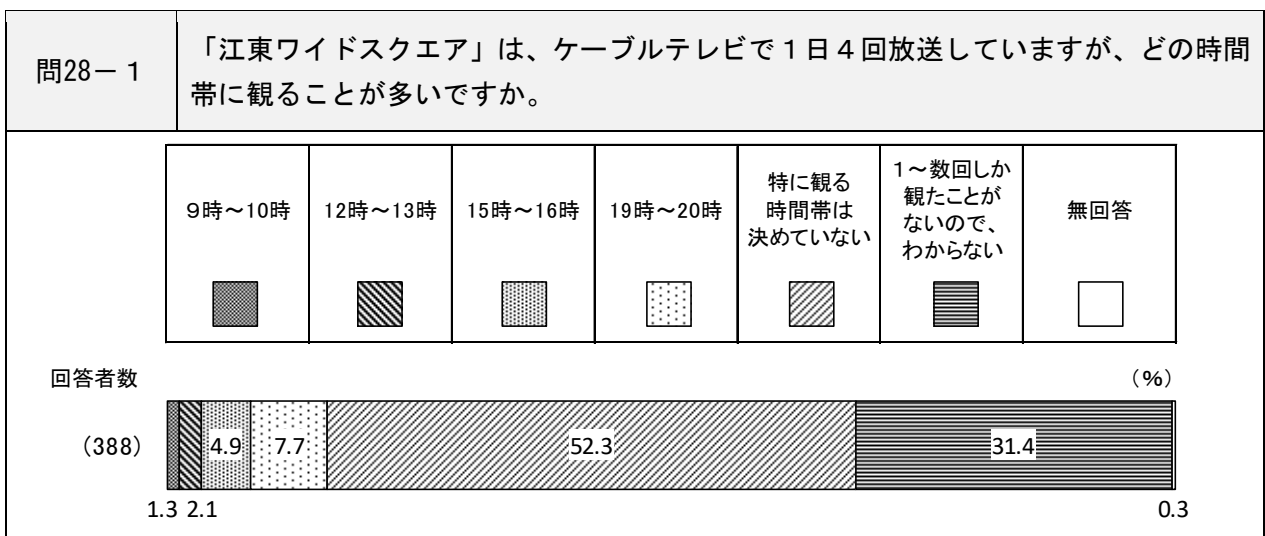


○「江東ワイドスクエア」を見たことがあるか聞いたところ、見た中では、「ケーブルテレビで観た」(23.3%)が2割を超えて最も多い。一方、「番組の名前は知っているが、観たことはない」が(20.4%)で2割、「番組があることを、この調査で初めて知った」(50.1%)が5割となっている。

(5) 「江東ワイドスクエア」の視聴時間帯

新規

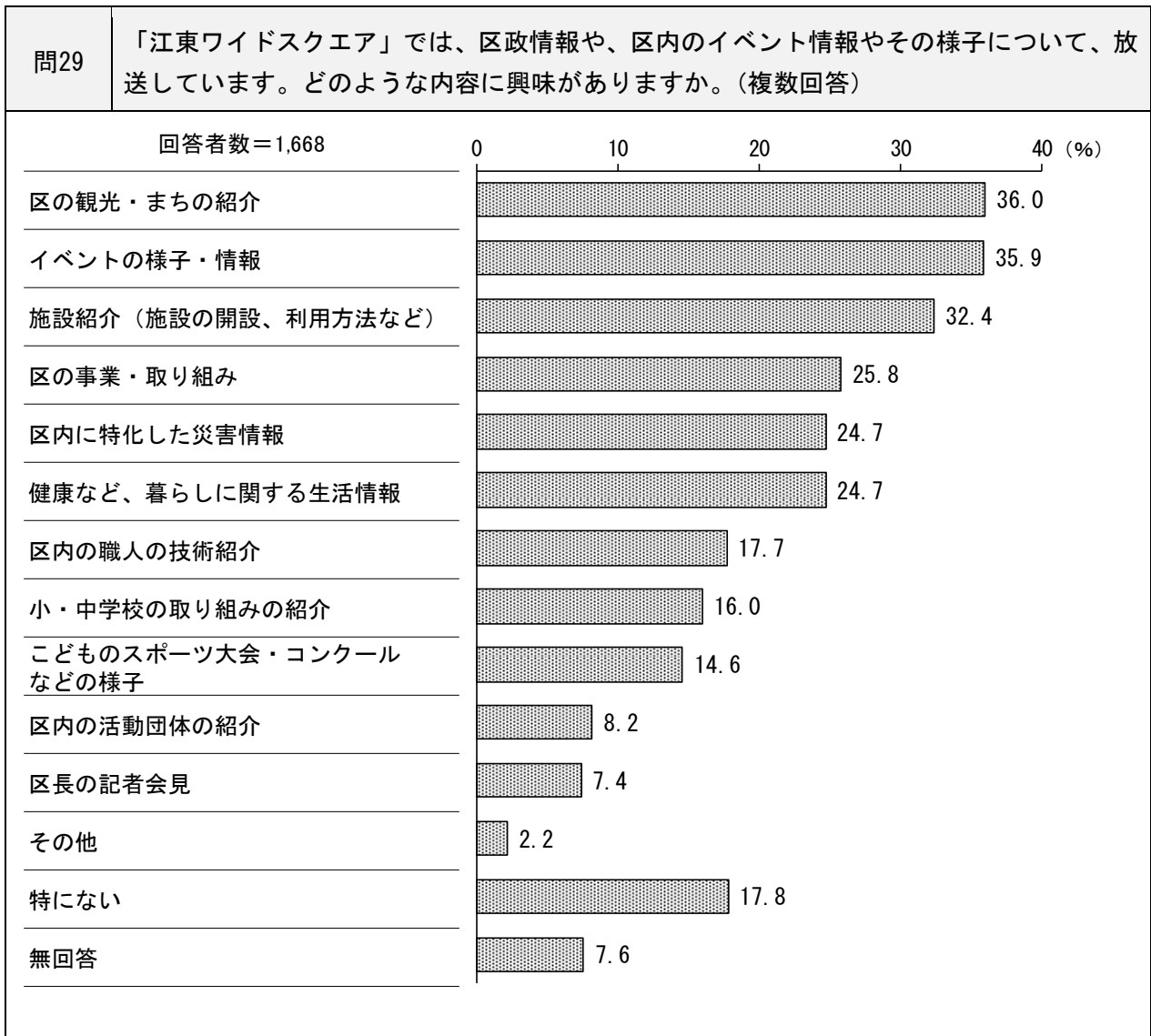
◇「特に観る時間帯は決めていない」が5割を超える



○「江東ワイドスクエア」を見たことがあると答えた方(388人)に、どの時間帯に観ることが多いかを聞いたところ、「特に観る時間帯は決めていない」(52.3%)が5割を超えて最も多く、次いで「1~数回しか観たことがないので、わからない」(31.4%)、「19時~20時」(7.7%)と続いている。

(6)「江東ワイドスクエア」で興味のある内容

◇「区の観光・まちの紹介」と「イベントの様子・情報」が3割台半ば



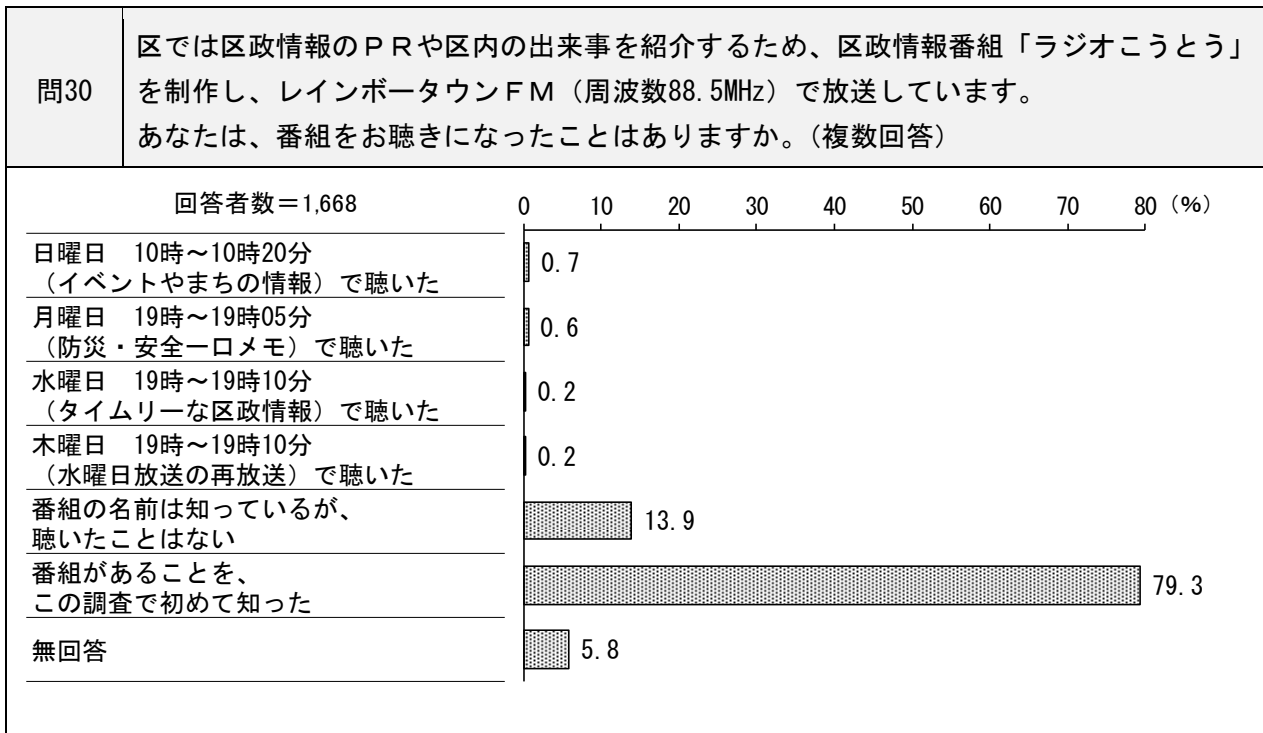
○「江東ワイドスクエア」で、どのような内容に興味があるかを聞いたところ、「区の観光・まちの紹介」(36.0%)が3割台半ばで最も多く、次いで「イベントの様子・情報」(35.9%)、「施設紹介(施設の開設、利用方法など)」(32.4%)と続いている。



(7)「ラジオこうとう」の聴取状況

新規

◇「番組があることを、この調査で初めて知った」がほぼ8割



○区政情報番組「ラジオこうとう」を聴いたことがあるか聞いたところ、「番組があることを、この調査で初めて知った」（79.3%）がほぼ8割で最も多く、次いで「番組の名前は知っているが、聴いたことはない」（13.9%）、「日曜日 10時～10時20分（イベントやまちの情報）で聴いた」（0.7%）と続いている。

## 15 コミュニティサイクル

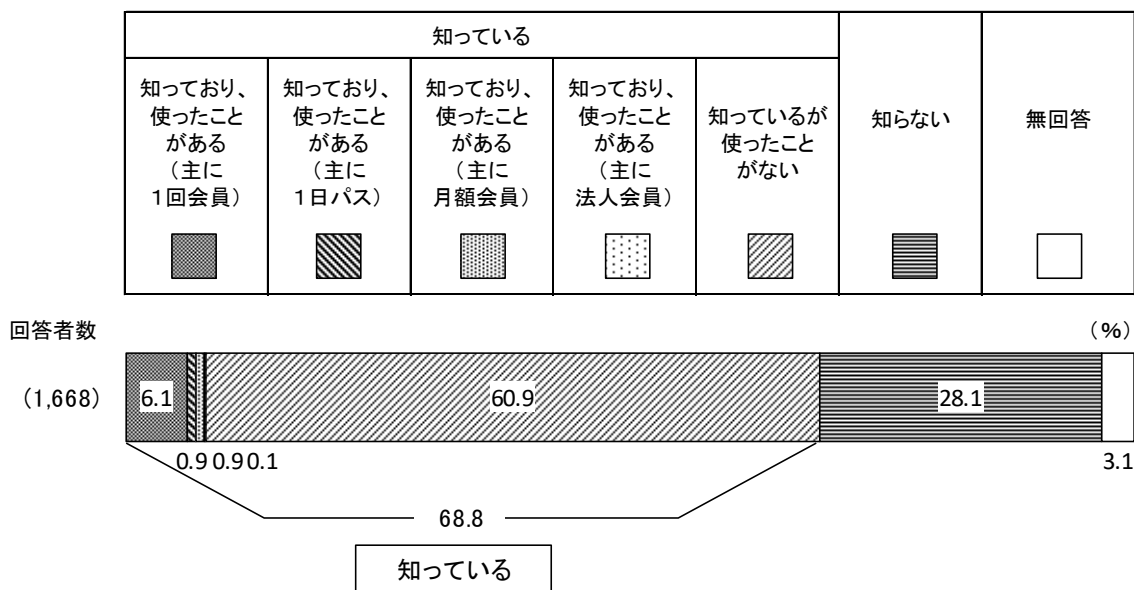
### (1) 「コミュニティサイクル」の認知状況

新規

◇「知っている」は7割近く

問31

江東区では、地域内に設置されたサイクルポートであれば、どこでも自転車を借りることができ、返却することができるシステムとして、「江東区臨海部コミュニティサイクル」(以下、コミュニティサイクル) 実証実験を行っています。あなたはコミュニティサイクルを知っていますか。

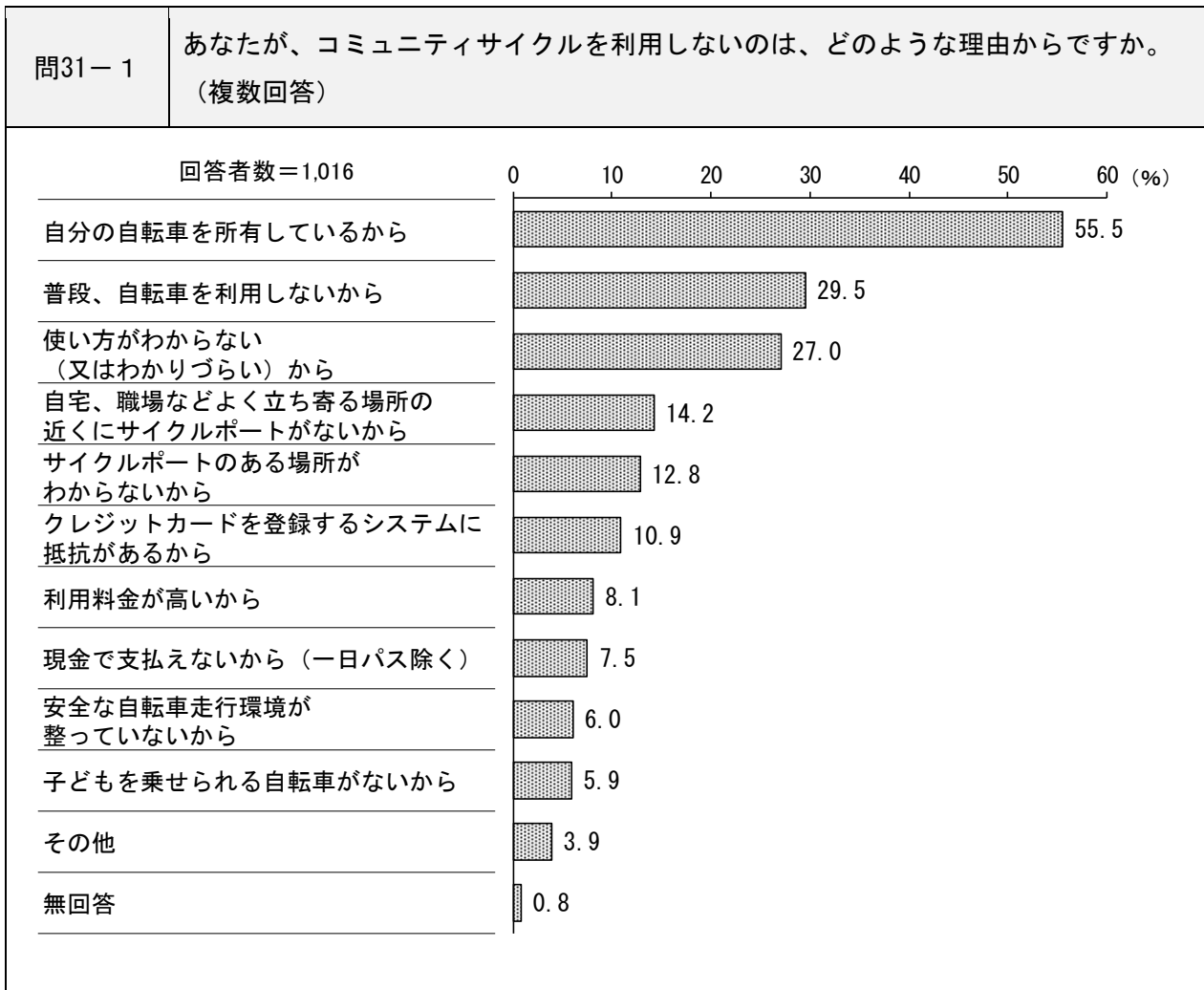


○コミュニティサイクルを知っているか聞いたところ、「知っており、使ったことがある (主に1回会員)」(6.1%)、「知っており、使ったことがある (主に1日パス)」(0.9%)、「知っており、使ったことがある (主に月額会員)」(0.9%)、「知っており、使ったことがある (主に法人会員)」(0.1%)、「知っているが使ったことがない」(60.9%)の5つを合わせた「知っている」(68.8%)が7割近くとなっている。一方、「知らない」(28.1%)は3割近くとなっている。

## (2) 「コミュニティサイクル」を利用しない理由

新規

◇「自分の自転車を所有しているから」が5割台半ば

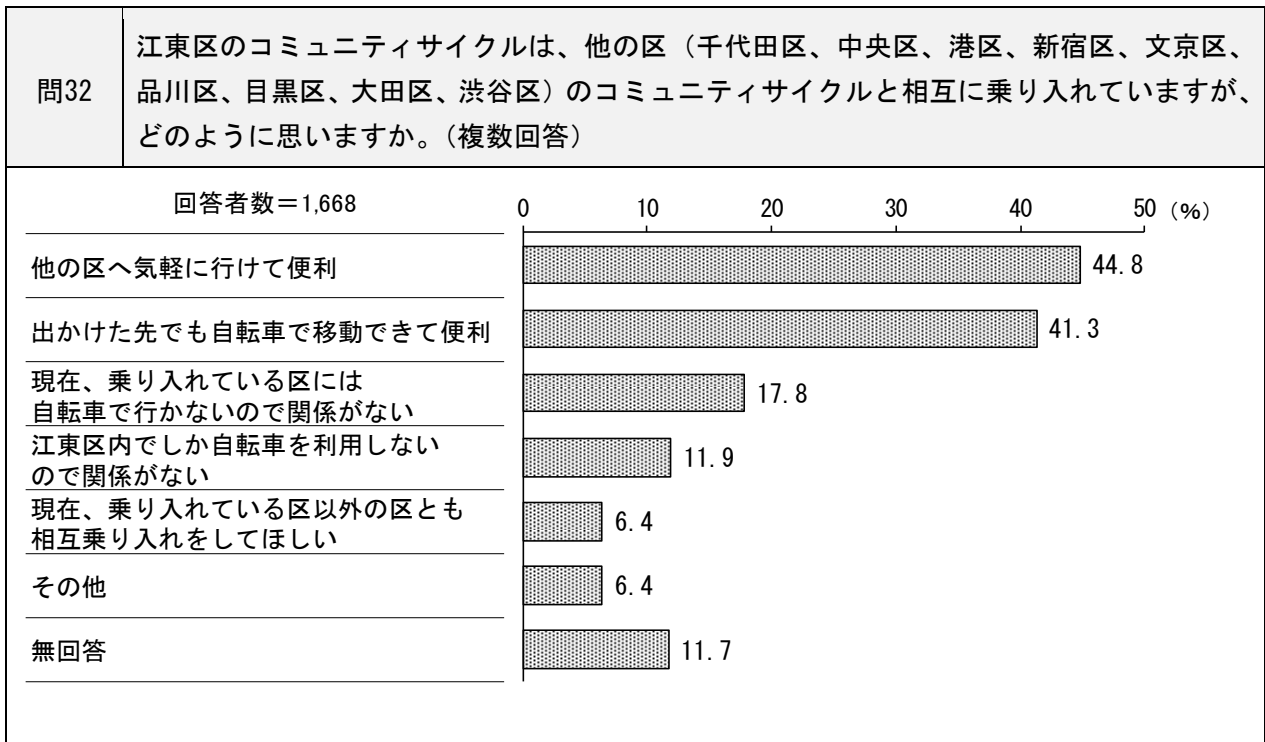


○コミュニティサイクルを知っているが使ったことがないと答えた方(1,016人)に、その理由を聞いたところ、「自分の自転車を所有しているから」(55.5%)が5割台半ばで最も多く、次いで「普段、自転車を利用しないから」(29.5%)、「使い方がわからない(又はわかりづらい)から」(27.0%)と続いている。

(3) 「コミュニティサイクル」の他区との相互乗り入れについての考え

新規

◇「他の区へ気軽に行けて便利」と「出かけた先でも自転車で移動できて便利」が4割台

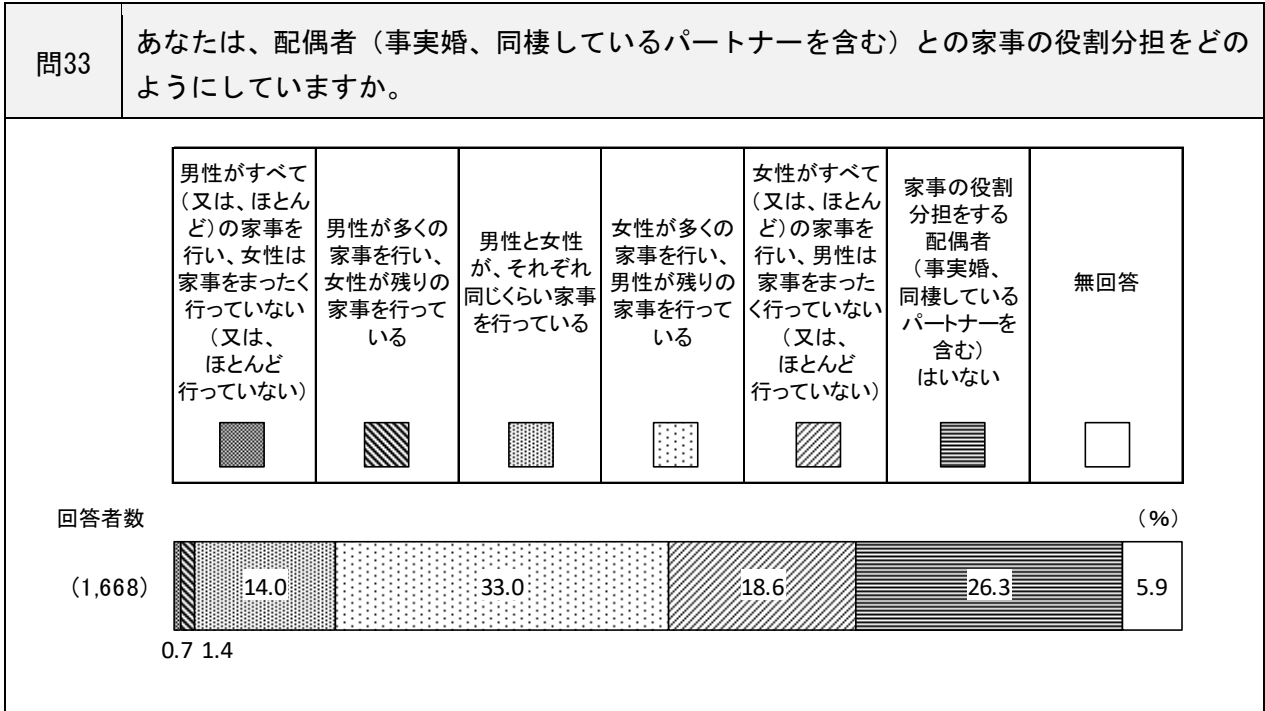


○コミュニティサイクルの他区との相互乗り入れについての考えを聞いたところ、「他の区へ気軽に行けて便利」（44.8%）が4割台半ばで最も多く、次いで「出かけた先でも自転車で移動できて便利」（41.3%）、「現在、乗り入れている区には自転車で行かないので関係がない」（17.8%）と続いている。

## 16 男女共同参画

### (1) 配偶者との家事の役割分担

◇「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」が3割を超える



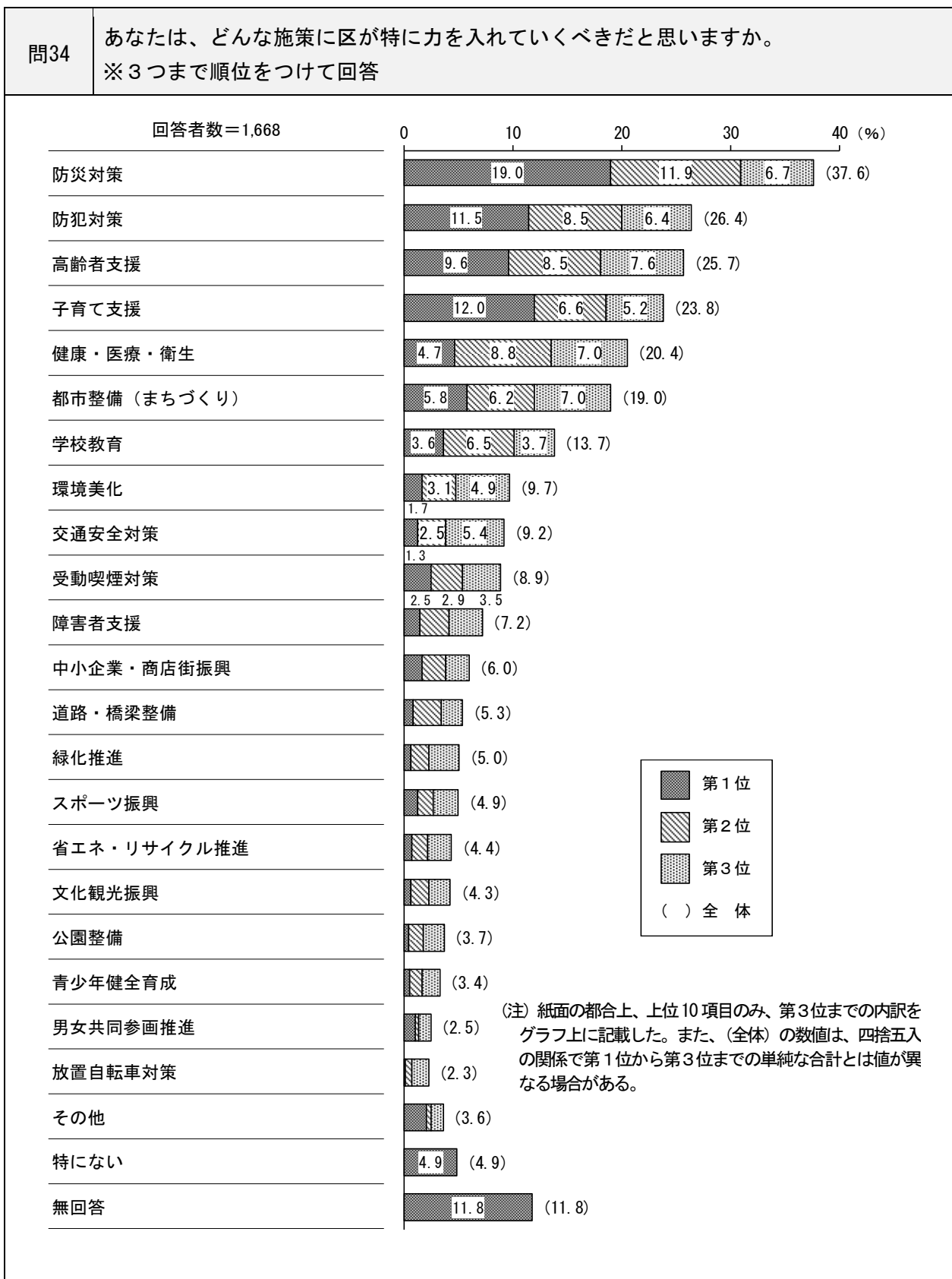
16 調査結果の概要  
男女共同参画

○配偶者との家事の役割分担について聞いたところ、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」(33.0%)が3割を超えて最も多く、次いで「女性がすべて（又は、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（又は、ほとんど行っていない）」(18.6%)、「男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている」(14.0%)と続いている。一方、「家事の役割分担をする配偶者（事実婚、同棲しているパートナーを含む）はいない」(26.3%)は2割台半ばとなっている。

## 17 施策への要望

### (1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が4割近く



○区に対して特に力を入れてほしいものを、第1位から第3位までを累計した《全体》でみると、「防災対策」(37.6%)が4割近くで最も多く、次いで「防犯対策」(26.4%)、「高齢者支援」(25.7%)と続いている。